金融SBT勉強会

2022年5月31日

CDP Worldwide-Japan

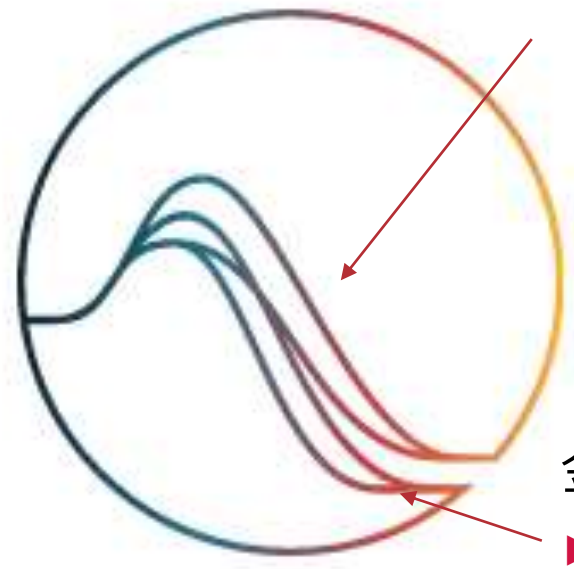
DISCLOSURE INSIGHT ACTION

本日の内容

1. 金融機関とSBT
2. 金融SBT概要
3. 金融SBT設定への道すじ
4. Q&A

金融機関とSBT

金融機関にとってのSBT（目的・重要性）



金融SBT：金融機関も気候科学に基づいた目標設定

- ▶ 金融セクターは、ネットゼロエミッションを達成するために必要なシステム全体の変化を解き放つための鍵
- ▶ SBTiファイナンスフレームワークにより、金融機関は、投融資を含む金融活動をパリ気候協定に整合させる短期的な科学的根拠に基づく目標を設定する

金融機関のネットゼロ：「ネットゼロ」目標・原則と整合的であるための2つの条件※

- ▶ すべての金融活動を、1.5℃の気温上昇に抑える経路に合わせる
- ▶ 金融活動を通じて残留排出量を中和する

※出所：Net-Zero Foundations for Financial Institutions Paper（SBTi 202204）

金融機関にとってのSBT（金融機関と投融資先の脱炭素）

1. 金融機関によるエンゲージメント

取引先企業にSBTの適用を推進

2. SBT設定企業の増加

SBT設定に取り組む企業の増加

3. ポートフォリオ・アライメント&アクション

SBTを設定する取引先企業の増加することで、金融機関の気候に対する活動が活発化

4. 金融SBTの設定

金融機関が自身の投融資に対して金融SBT設定にコミットすることを発表

金融機関にとってのSBT （SWOT分析的アプローチ）

S:strength

- 認知度・ブランド力の向上・差別化
- 「ネットゼロ」への本気度※
- 各イニシアティブ・CDPスコア

W:weakness

- リソース
- 目標達成へのプレッシャー

※その削減目標は科学に基づいていますか？

O:opportunity

- サステナビリティ、「ネットゼロ」の高まり
- サステナブル金融市場
- 投融資先企業の技術進歩

T:threat

- 競争環境
- 規制（情報開示、排出量削減）

金融SBT概要

CDP, SBTと金融機関

Science Based Target とは？

SCIENCE BASED TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

Founding Partners

CDP DISCLOSURE INSIGHT ACTION

United Nations Global Compact

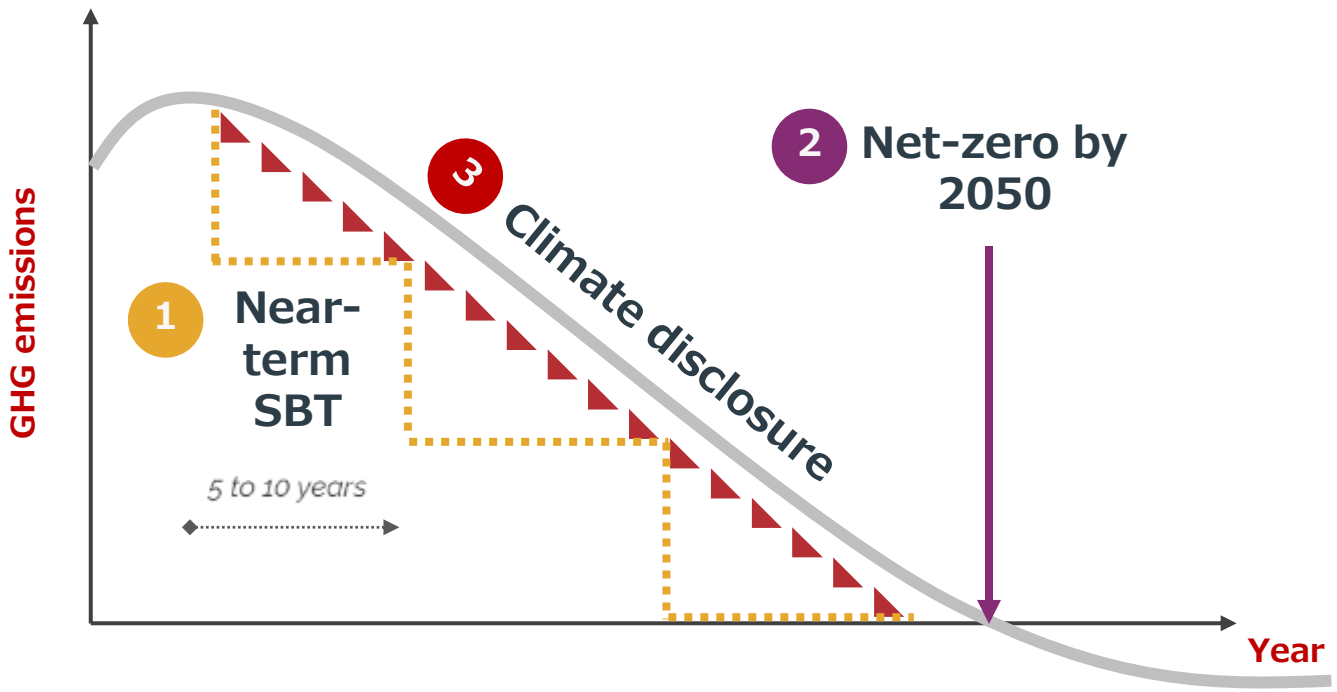
WORLD RESOURCES INSTITUTE

WWF

In collaboration with WE MEAN BUSINESS COALITION

2022年5月30日時点

Science Based Target とは？



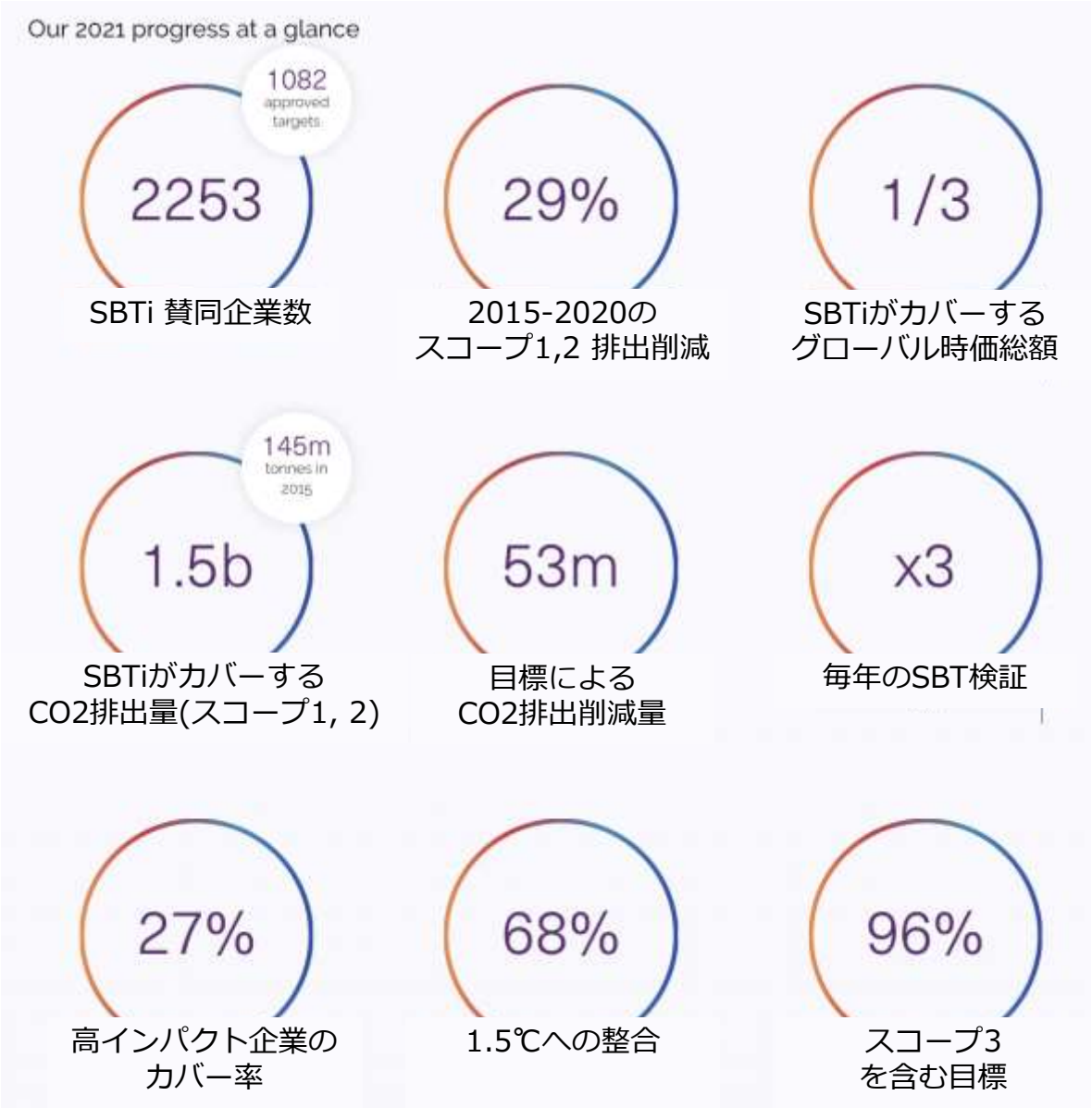
1 **(短期)SBT:**
1.5℃経路に沿った5～10年の排出量削減目標

2 **長期SBT(ネットゼロ目標):**
遅くとも2050年までに1.5℃シナリオのレベルまで排出量を削減する目標

3 **毎年の開示:**
気候関連の戦略の実施状況を可視化し、目標に対する進捗の透明性を提供 → CDP

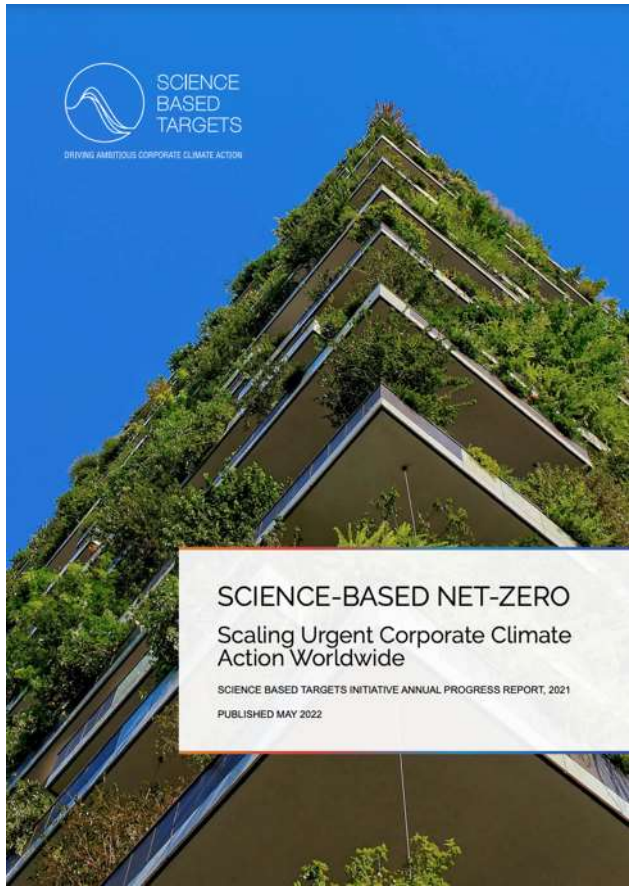
SBT(科学に基づく目標)は、気候変動による最悪の影響を防ぐために、
企業がGHG排出量をどの程度どれだけ早く削減する必要があるかを示す。

SBTi 進捗レポート2021

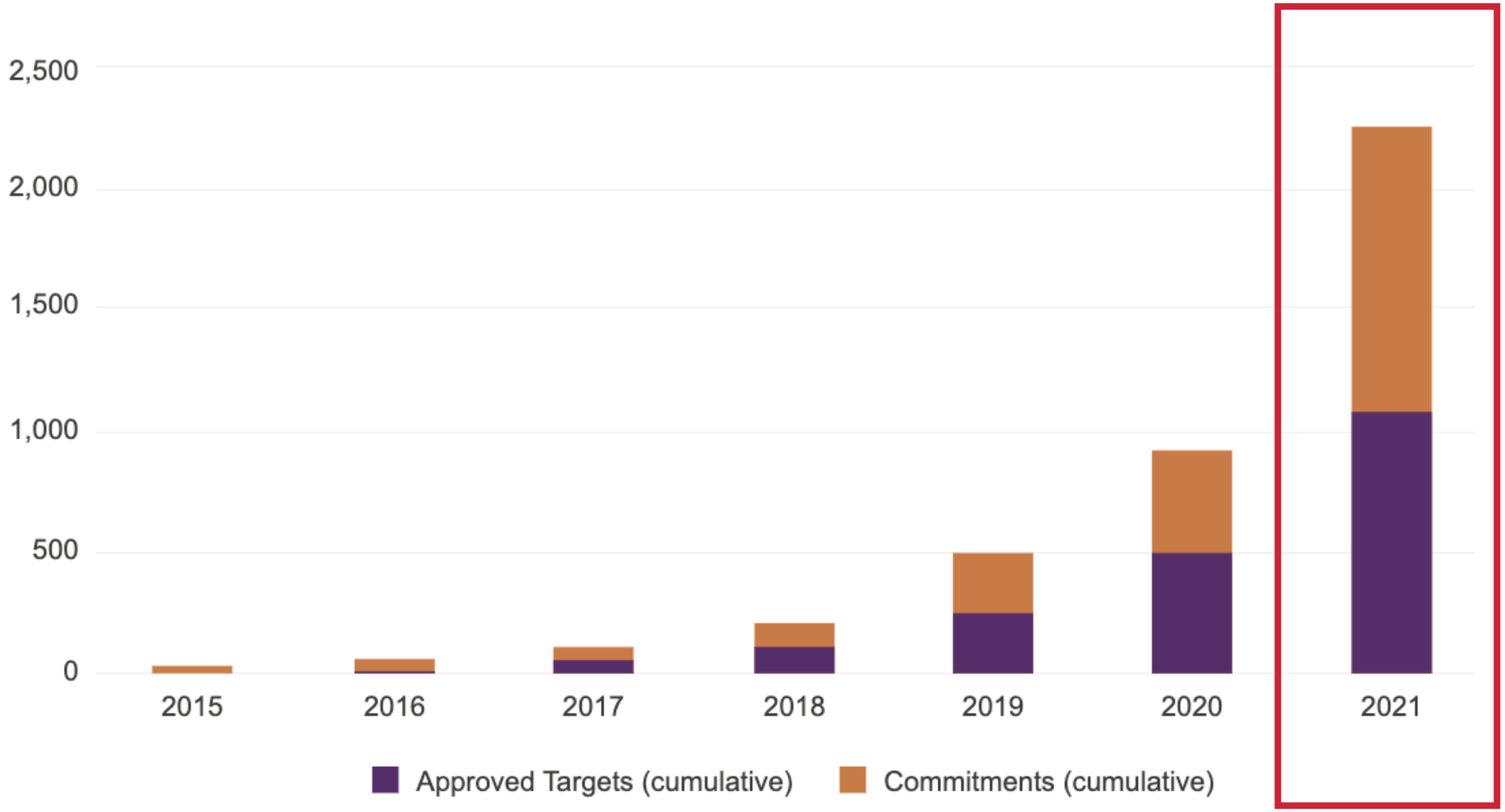


SBTiは2022年5月に2021年の進捗レポートを発表。

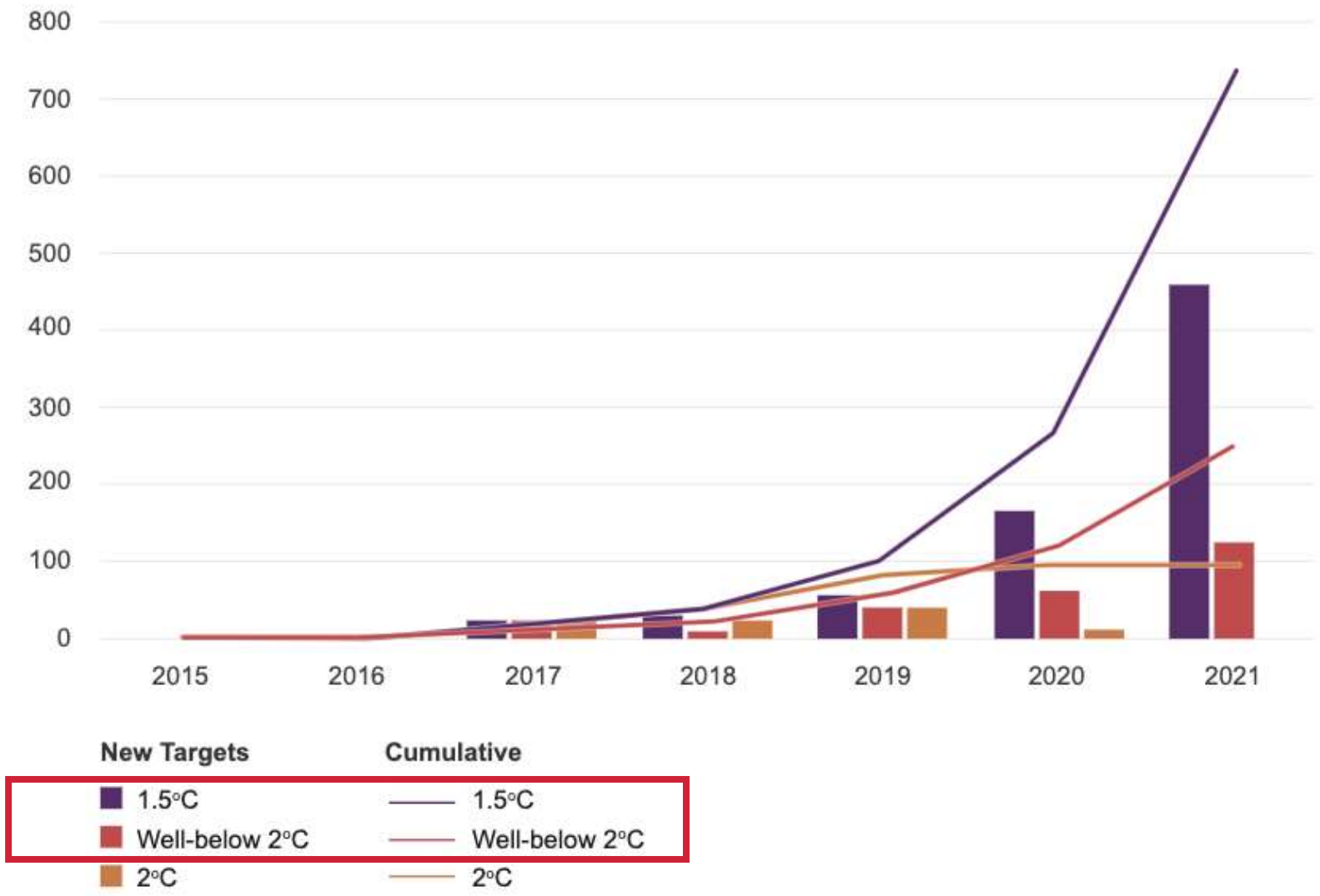
https://sciencebasedtargets.org/reports/sbti-progress-report-2021/about-this-report



SBTi 進捗レポート2021



SBTi 進捗レポート2021



SBTiの動き

2022年2月で**金融SBT**のパイロットフェーズが終了
→2022年中に150以上の金融機関で金融SBT認定を目指し、検証体制の強化を進める

23
APPROVED TARGETS

133
COMMITTED
*ネットゼロ **62**

2022年5月30日時点

Amalgamated Bank
USA, North America

EQT AB
Sweden, Europe

E.SUN Financial Holding Co., Ltd.
Taiwan, Province of China, Asia

KB Financial Group
South Korea, Asia

La Banque Postale
France, Europe

Schroders
UK, Europe

など…

SBTiは、測定・報告・検証(Measurement, Reporting & Verification; MRV)に関して、Progress Frameworkを開発し、企業や金融機関の気候変動に対する取り組みについて透明性・アカウンタビリティを求める。
2022年後半：開発プロセスの詳細　　2023年(COP28)：開発の完了

SBT設定までの流れ

COMMIT	DEVELOP	SUBMIT	COMMUNICATE	DISCLOSE
オンライン上で レターを提出	GHG排出削減 目標を開発	目標を提出し 検証を受ける	ステークホルダー にSBTを発表	毎年の進捗状況 を報告

*大企業向けのプロセスであり、中小企業(従業員500名以下の独立した会社)向けには別途ルートを提供。

SBT設定までの流れ

CDP
DISCLOSURE INSIGHT ACTION

COMMIT

オンライン上で
レターを提出

まずは、コミットメントレターを提出
(24ヶ月以内の設定が求められる)
https://sciencebasedtargets.org/resources/files/SBT-Commitment-Letter.pdf

RACE TO ZERO

BUSINESS AMBITION FOR 1.5°C

SCIENCE BASED TARGETS

Science Based Targets Initiative
COMMITMENT LETTER

Version 1 - November 2021

- Organizations joining the Science Based Targets initiative (SBTi) must follow the SBTi step-by-step process and align with SBTi criteria and recommendations.
- Please consult the SBTi FAQ for additional information on the process and expectations.
- SMEs[1] are welcome to join the SBTi by submitting a completed SME Science-Based Target Setting Form instead of this document.

Introduction

The Science Based Targets initiative (SBTi) is a global body enabling businesses to set ambitious emissions reductions targets in line with the latest climate science. It is focused on accelerating companies and financial institutions across the world to halve emissions before 2030 and achieve net-zero emissions before 2050.

The initiative is a collaboration between CDP, the United Nations Global Compact, World Resources Institute (WRI) and the World Wide Fund for Nature (WWF) and one of the We Mean Business Coalition commitments.

The initiative champions science-based target setting as a powerful way of boosting companies' and financial institutions' competitive advantage in the transformation to the low-carbon economy. Science-based targets are greenhouse gas emissions reduction targets that are in line with the level of decarbonization required to meet the goals of the Paris Agreement – to limit global warming to well-below 2°C above pre-industrial levels and pursue efforts to limit warming to 1.5°C.

Step-by-step process to set a science-based target

Setting a science-based target is a five-step process:

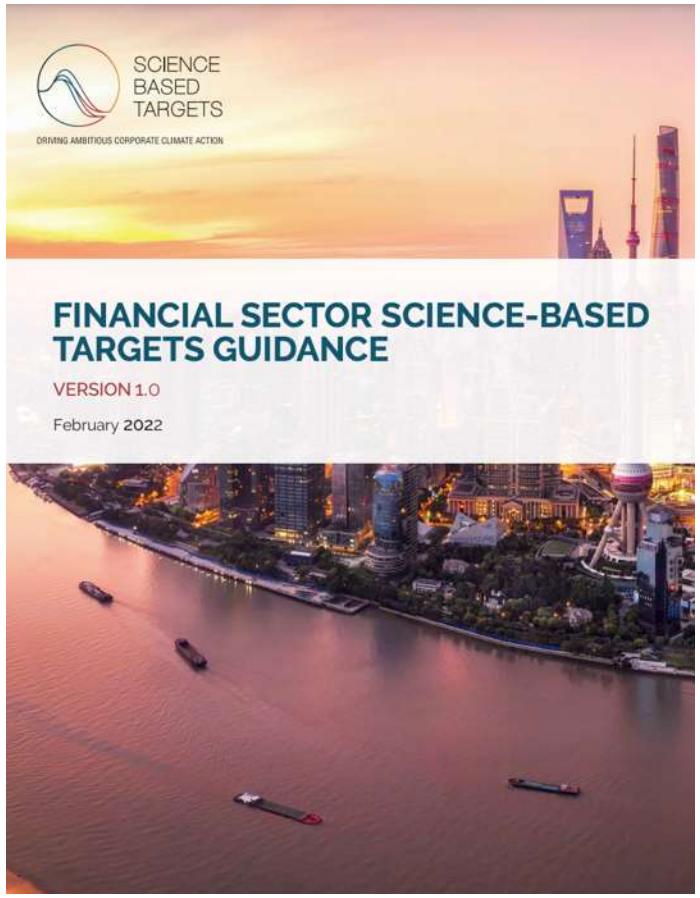
Step 1. Register online and submit the commitment letter

Signing this commitment letter indicates that your organization will work to set a science-based emission reduction target aligned with the SBTi's target-setting criteria. After registering online and submitting your commitment letter to commitments@sciencebasedtargets.org, your organization will be recognized as "committed" at sciencebasedtargets.org as well as on our partner websites at We Mean Business, and the UN Global Compact.

[1] For the purpose of the SBTi and its target validation process, SMEs are defined as a non-subsidiary, independent company which employs fewer than 500 employees.

SBT設定までの流れ

Sector	Status
Aluminium	→ Scoping Phase
Apparel and footwear	Finalized
Aviation	Finalized
Buildings	In Development
Chemicals	In Development
Cement	In Development
Financial institutions	Finalized
Forest, Land and Agriculture (FLAG)	In Development
Information and Communication Technology (ICT)	Finalized
Oil and Gas	In Development
Power	Finalized
Steel	In Development
Transport	In Development



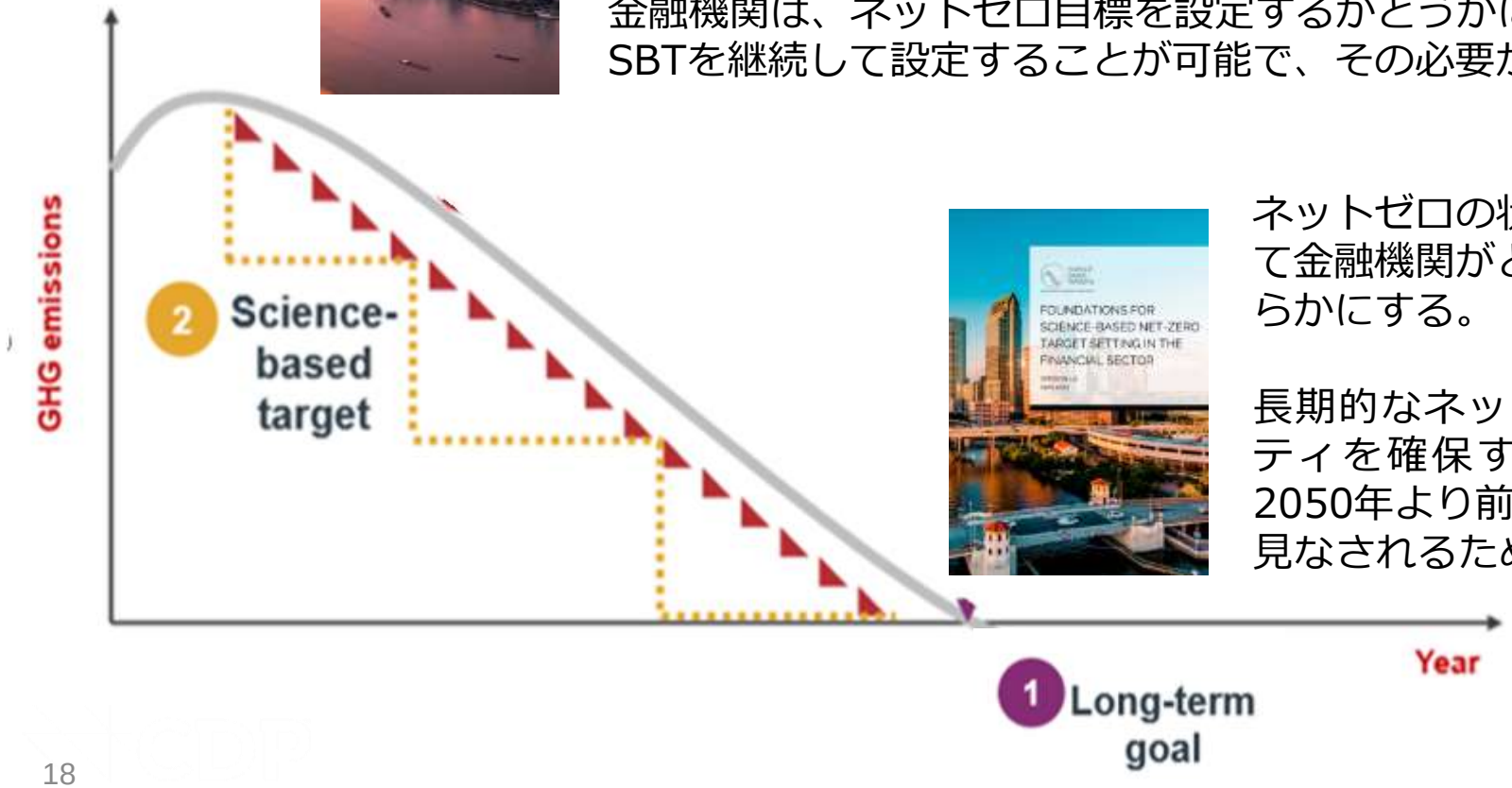
https://sciencebasedtargets.org/resources/files/Financial-Sector-Science-Based-Targets-Guidance.pdf

https://sciencebasedtargets.org/resources/files/SBTi-Criteria-and-Recommendations-for-Financial-Institutions.pdf

金融機関のネットゼロ

短期SBT：金融機関が、信頼性のある科学に基づく行動によってネットゼロに向けて歩み始める際に必要なもので、科学に基づく目標により全ての関連する金融に係る排出に取り組むことを確実にする。

金融機関は、ネットゼロ目標を設定するかどうかにかかわらず、こうした短期のSBTを継続して設定することが可能で、その必要がある。



ネットゼロの状態を定義し、ネットゼロ経済の実現に向けて金融機関がどういった役割を果たすことができるかを明らかにする。

長期的なネットゼロの主張においては、アカウンタビリティを確保する**短期SBTがあってこそ信頼性がある。**2050年より前に最終状態に到達することは、ネットゼロと見なされるための必要条件であっても、十分条件ではない。

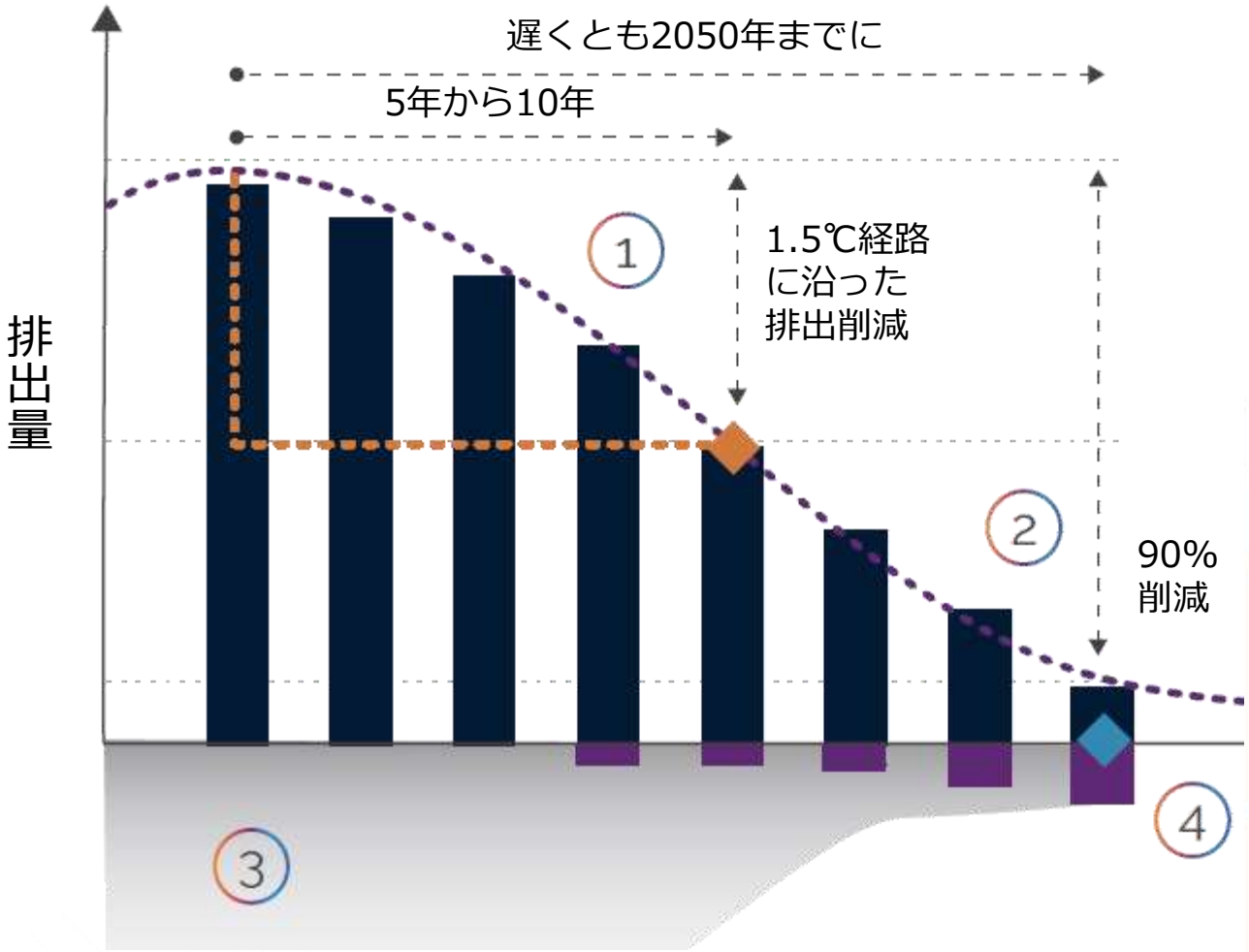
金融機関のネットゼロ

SBTi Corporate Net-Zero Standard (SBTi 企業ネットゼロ基準)
企業セクターにおける信頼性のある科学に基づく(science-based)ネットゼロ目標の設定に関するクライテリアとガイダンスを定義。

SBTi Finance Net-Zero Standard (SBTi金融ネットゼロ基準)
企業ネットゼロ基準の知見、信頼性、成功を活かし、金融セクター向けに同様のリソースを開発中。

2023年1-3月
SBTi金融
ネットゼロ基準
のローンチ

SBTi企業ネットゼロ基準



① **短期SBT**
② **長期SBT**
③ バリューチェーンを超えた緩和
④ **中和**

- 自社バリューチェーン内における排出削減
- GHGの吸収・除去
- 自社バリューチェーンを超えた除去や削減
- 排出量実質ゼロ(ネットゼロ)

Mitigation tactics		Mitigation outcomes
バリューチェーン内	バリューチェーン外	
削減 バリューチェーン内のGHG排出源を防止、削減、または排除するために企業が取る対策	補償 バリューチェーン外のGHG排出源を防止、削減、または排除するために企業が取る対策	大気に放出される温室効果ガスの量を減らす • 脱炭素化 • 森林減少と土地利用変化による排出をなくす • CO2以外の排出を最小化
中和 削減されずに残っている排出源の影響を相殺するために大気から炭素を取り除くために企業が取る対策		大気から炭素を除去

Figure 3. Taxonomy of climate mitigation tactics and outcomes

出典：SBTi「SBTI CORPORATE NET-ZERO STANDARD Version 1.0」

金融機関のネットゼロ

「個々の金融機関が自らのポートフォリオの中でネット・ゼロを達成すること？」
「投融資の活動を通じてグローバルなネット・ゼロの目標達成に貢献すること？」

バウンダリ(範囲)
- 全てのGHG vs CO_2
- 金融活動
- ポートフォリオ企業のスコープ1+2 or 1+2+3

時間フレーム
- 短期
- 長期

緩和戦略
- 金融に係る排出の脱炭素化
- 気候ソリューションへの投資

金融機関にとってのネット・ゼロ定義

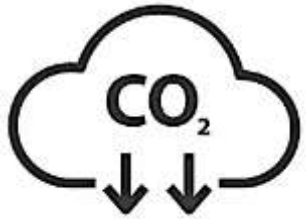
- すべての資金を、オーバーシュートを伴わないor限定的に抑えた1.5℃のパスウェイに整合させる
- 大気中の二酸化炭素を永久に除去するような取り組みへのファイナンスを通じて、残留排出量を中和させる

- Financed Emissions
  - Absolute Portfolio Emissions (tCO2e)
  - Portfolio-Wide Intensity
    例: Weighted Average Carbon Intensity (tCO2e/revenue)
  - Sector-Based Physical Intensity (例: tCO2e/MWh)
- Portfolio Alignment
  - Binary Target Measurement
  - Implied Temperature Rise
  - Capacity-Based Metrics
- Portfolio Contribution
  - Internal Carbon Price
  - Green Metrics (e.g., Taxonomy or Revenue Share)

金融機関のネットゼロ

金融機関のネットゼロ定義

1. 金融機関のネットゼロはどのように定義されるべきか？
2. これら定義の中で気候ソリューションの役割はどのようなものか？



カーボンクレジット

1. 炭素除去への資金提供において、金融機関はどのような役割を担うか？
2. ネットゼロの主張にカーボンクレジットはどう利用しうるか？

化石燃料への融資

1. 目標設定の中でどのように扱われるべきか？
2. 化石燃料関連の目標について、野心度はどのように定義されるべきか？

指標 & 方法

1. 進捗の追跡に、どういった指標や方法を用いることが最善か？
2. 実体経済へのインパクトを確かなものにするには、どのような方法が最善か？

金融SBT

https://sciencebasedtargets.org/resources/files/Financial-Sector-Science-Based-Targets-Guidance.pdf

https://sciencebasedtargets.org/resources/files/SBTi-Criteria-and-Recommendations-for-Financial-Institutions.pdf

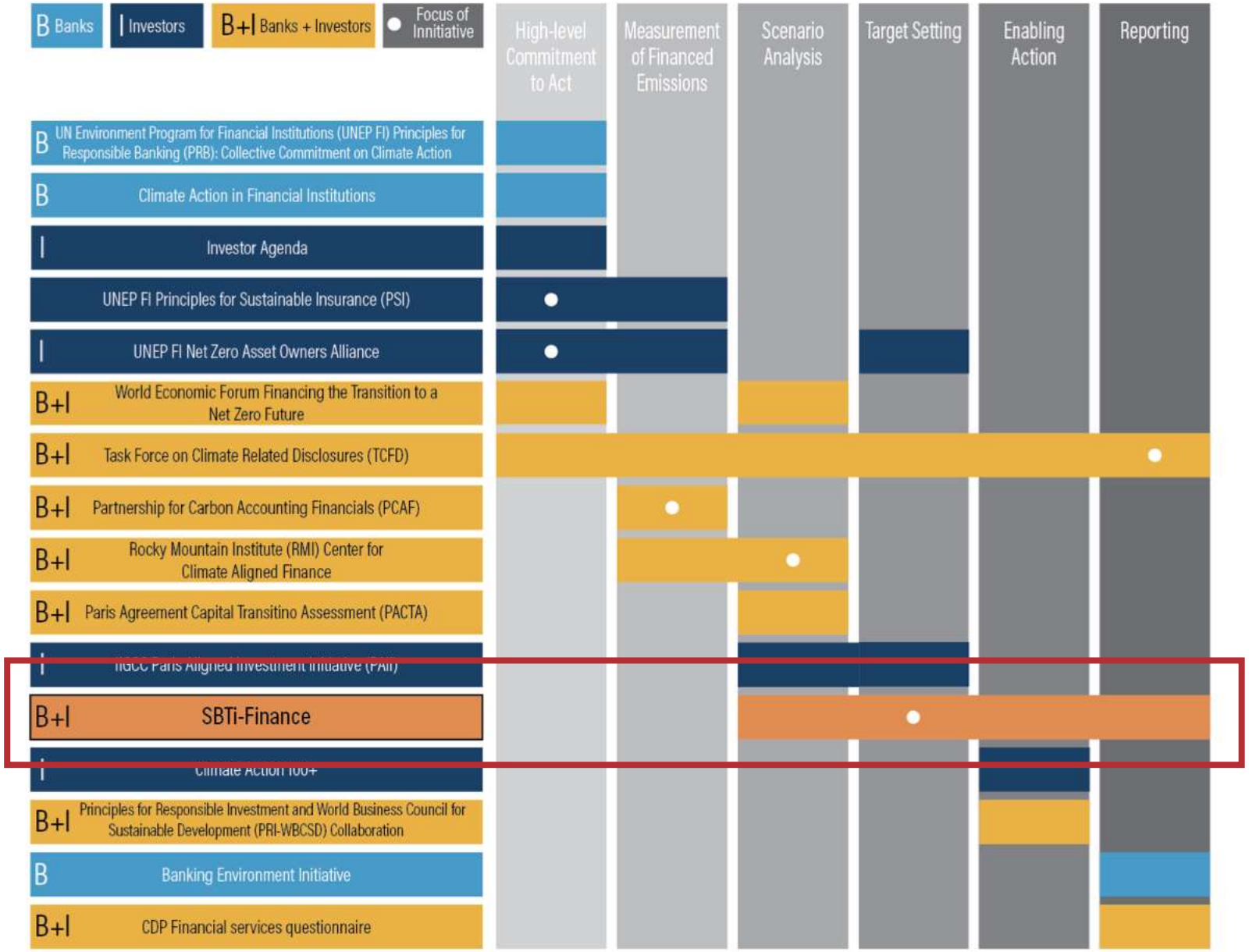
https://sciencebasedtargets.org/resources/files/SBTi-Private-Equity-Sector-Guidance.pdf

金融機関の目標設定

金融機関向け科学に基づく目標設定(金融SBT)

- セクター別脱炭素化アプローチ(SDA)
- ポートフォリオカバー率のアプローチ
- 気温上昇スコアのアプローチ

Table 1.1. Relevant Initiatives That Support Financial Institutions' Climate Actions



金融機関の取り組むイニシアチブ

CDP
DISCLOSURE INSIGHT ACTION

コミットメント キャンペーン → 測定 + シナリオ分析 → 目標設定 → 行動 → 報告

THE INVESTOR AGENDA
ACCELERATING ACTION FOR A LOW-CARBON WORLD

UNEP FINANCE INITIATIVE

PCAF

Center for Climate Aligned Finance

2° Investing Initiative

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

IIGCC
The Institutional Investors Group on Climate Change

THE NET-ZERO ASSET OWNER ALLIANCE

Climate Action 100+

PRI Principles for Responsible Investment

TCFD TASK FORCE on CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

CDP

金融SBTの対象について

PAII(パリ協定に整合する投資イニシアチブ)

NZAOA(ネット・ゼロ・アセット・オーナーズ・アライアンス)

⇨投資家(investor)の目標設定に関するフレームワーク

金融SBT

⇨**銀行・アセットオーナー・アセットマネジャー・REIT**において適用可能

現在、保険引受は対象外(アセットオーナー・アセットマネジャーとして金融SBT設定可能)

金融機関のネットゼロ

金融に係るGHG排出:

ネットゼロに向けて排出量削減

ハイレベルのGHG目標: 2050年までにネットゼロ
「投資における二酸化炭素排出源単位を*2025*年までに*25%*、*2030*年までに*60%*削減する。」

ポートフォリオアラインメント:

パリ協定に整合したアセットの増加

アセットクラスレベルのアラインメント目標:
「*EQT*ファンドの未公開・公開株式ポートフォリオの*40%*が*2025*年までに、*100%*が*2030*年までに、科学に基づく目標を設定する予定である。」
金融SBTの検証対象

投資戦略

エンゲージメント主導と資本の再配分

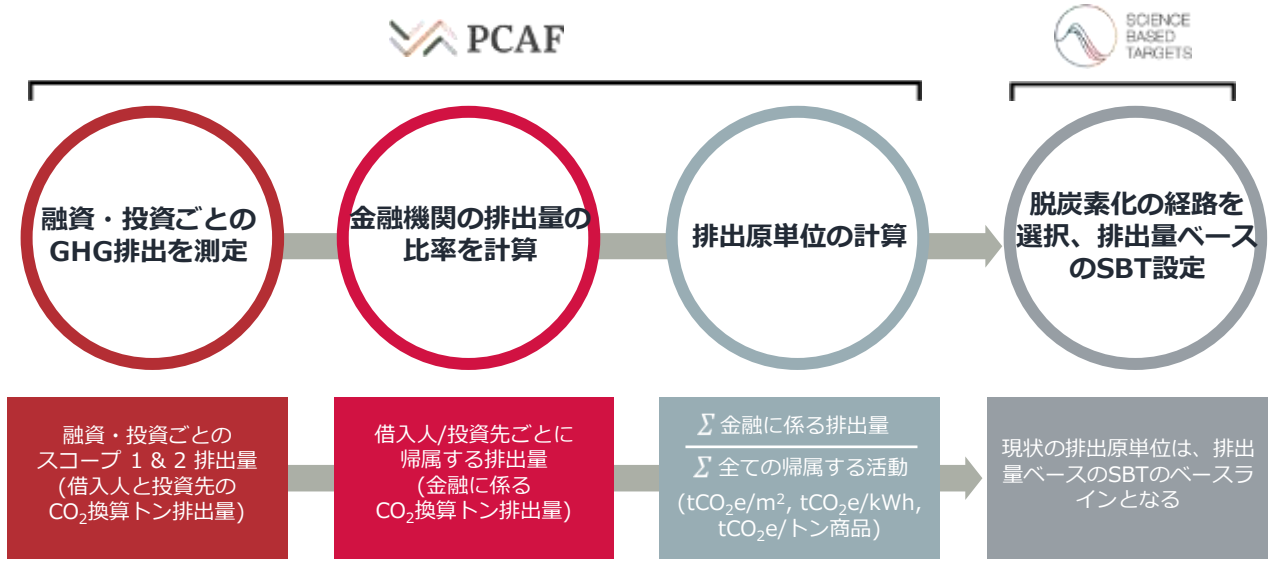
投資方針と資本目標:
「*2030*年までに一般炭への投融資を停止する。」
「*2025*年までにグリーン資産に*X*億ドル投資する。」

金融SBT

1. バウンダリの設定

資産クラス	目標に組み入れる商品と要件	必要最低限のカバー率
上場株式・債券	普通株	100%
	優先株	100%
	社債	100%
	ETF	100%
	不動産投資信託(REITs), 上場不動産会社, 不動産投資信託への投資	100%
	ファンドオブファンズ	任意
	デリバティブ	該当せず
	ソブリン債, 国債	該当せず
	国際機関債l, サブソブリン債(地方債を含む)	該当せず
	機関債	該当せず
	証券化された債券（資産担保証券/モーゲージ証券, カバードボンドを含む）	該当せず

2. ベースラインの計算



3. 方法の選択

排出量を基準とした物理的原単位目標: SDAのセクター (重工業 + 不動産/住宅ローン)のみ利用可能.
限られた対象範囲 – ローン/ プロジェクトファイナンスに最も有効

エンゲージメントの目標として承認されたSBTsを持つポートフォリオの企業のカバー率を高める
限られた対象範囲 – エクイティ/ローンに最も有効

“エンゲージメント+” 目標として野心的なGHG目標を持つポートフォリオの企業のカバー率を高める
最も広い対象範囲 – エクイティ/ローンに最も有効

金融SBTのケーススタディ

E.SUN Financial Holding Co., Ltd. (台湾)

スコープ 1 & 2

スコープ1,2のGHG排出量を、2020年比で2030年までに42%削減する。再生可能エネルギーの年間調達量を2020年の1.7%から、2030年までに100%にする。

スコープ 3

・プロジェクトファイナンス

発電プロジェクト・ファイナンスのポートフォリオについてGHG排出量を、2030 年までに、2019年比でMWhあたり50%削減する。

・商業用不動産

法人向け融資の商業用不動産のポートフォリオについてGHG排出量を、2030年までに、 2019年比で1平方メートルあたり59%削減する。

・長期貸付

法人向け融資の発電セクターのポートフォリオについてGHG排出量を、2030年までに、2019年比で1MWhあたり49%削減する。金融、小売、サービス、食品、宿泊、不動産開発セクターからのGHG排出量を、 2030年までに、2019年比で1平方メートルあたり58%削減する。化石燃料*、電気・電子機器、鉄鋼、パルプ・紙、セメントセクターからのGHG排出量を、 2026年までに、33%(融資額ベース)が科学に基づく目標(SBT)を設定する。

*化石燃料セクター向けの融資は100%カバー。

・株式・債券

上場株式・債券ポートフォリオについて、2026年までに、 34%(総資産比)がSBTを設定する。

金融SBTのケーススタディ

金融機関	アセットクラス	方法	目標の野心 & 年限
La Banque Postale	**商業不動産、住宅ローン、プロジェクトファイナンス、公開株式・債券、法人融資**	セクター別脱炭素化アプローチ(商業不動産、住宅ローン、プロジェクトファイナンス) 気温上昇スコア(公開株式・債券、法人融資)	不動産、住宅ローン、発電プロジェクトファイナンス、企業金融商品について2020年を基準年として2030年までにSBTsを達成する。La Banque Postaleのポートフォリオ目標は、2020年時点の投融資活動全体の85%をカバーしている。
KB Financial Group Inc.	**不動産、発電プロジェクトファイナンス、企業金融商品(株式、債券、ローン)**	セクター別脱炭素化アプローチ(不動産、発電プロジェクトファイナンス、株式・債券) 気温上昇スコア(ローン)	企業金融商品(株式、債券、ローン)、商業不動産、発電プロジェクトファイナンスポートフォリオについて2019年を基準年として2030年までにSBTsを達成する。KBフィナンシャルグループのポートフォリオ目標は、2019年12月31日時点のエクスポージャー総額*で投融資活動全体の12.89%をカバーしている。
EQT AB Group	**不動産、上場・未上場株式投資、企業金融商品(株式、債券、ローン)**	セクター別脱炭素化アプローチ(不動産) SBTポートフォリオカバー率(企業金融商品)	上場・未上場株式、不動産ポートフォリオについて、2019年を基準年として2030年までにSBTsを達成する。EQTのポートフォリオ目標は、2020年12月31日時点の株主資本でEQTファンドの投融資活動全体の98%をカバーしている。

*エクスポージャー総額は、KBフィナンシャルグループが運用するローン、株式、債券、受益証券、その他有価証券の合計。

PCAFと金融SBT

PCAF

SCIENCE BASED TARGETS

融資・投資ごとのGHG排出を測定

金融機関の排出量の比率を計算

排出原単位の計算

脱炭素化の経路を選択、排出量ベースのSBT設定

融資・投資ごとのスコープ１＆２排出量(借入人と投資先のCO_2換算トン排出量)

借入人/投資先ごとに帰属する排出量(金融に係るCO_2換算トン排出量)

$$\frac{\sum \text{金融に係る排出量}}{\sum \text{全ての帰属する活動}}$$

(tCO_2e/m^2, tCO_2e/kWh, tCO_2e/トン商品)

現状の排出原単位は、排出量ベースのSBTのベースラインとなる

金融SBT設定のアプローチ

排出量を基準とした物理的原単位目標
※SDA適用セクター (重工業 + 不動産/住宅ローン)のみ

ポートフォリオ内企業のうち**承認されたSBTs**を持つ企業の比率を高める

ポートフォリオ内企業のうち**野心的なGHG目標**を持つ企業の比率を高める

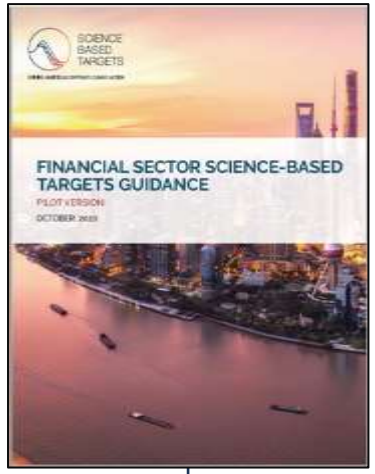
参考　TCFDが推奨するポートフォリオ・アラインメントのツールに関するカテゴリ

Binary target measurements バイナリーターゲット計測	Benchmark divergence models ベンチマーク乖離モデル	Implied temperature rise models 内包的温度上昇モデル

CDP, SBTと金融機関

金融SBT設定への道すじ

金融SBT



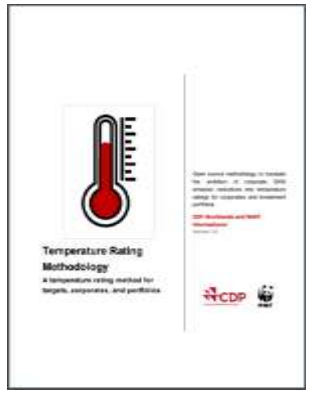
1.要件
/Crireria

4.ツール

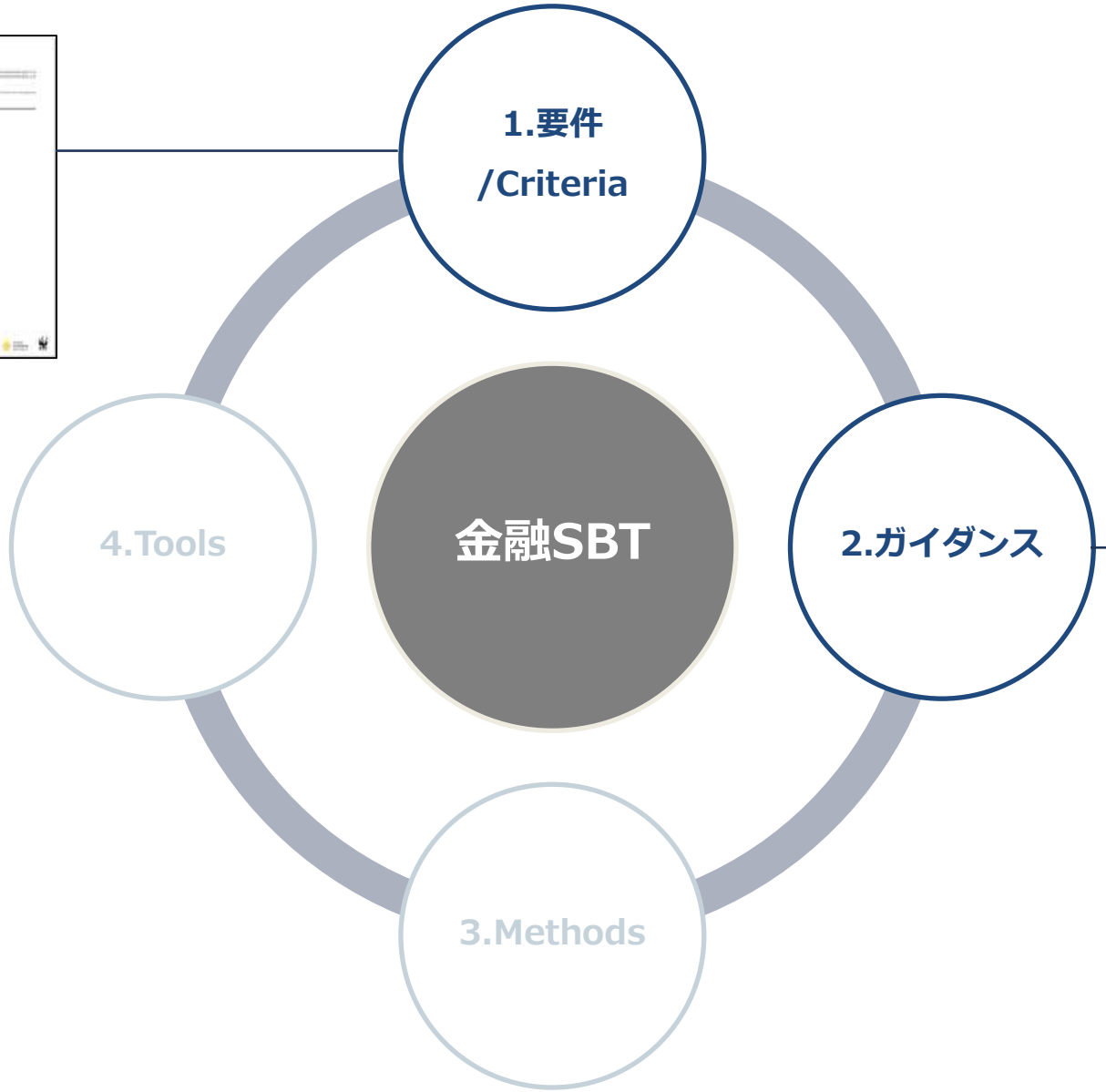
金融SBT

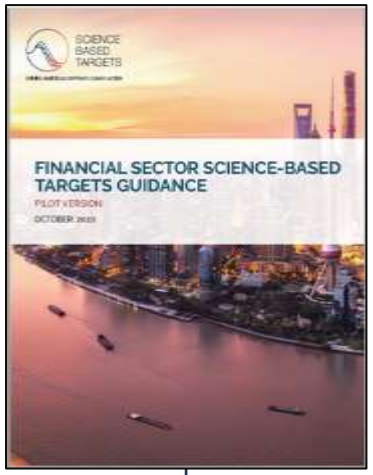
2.ガイダンス

3.手法



要件 & ガイダンス


1.要件
/Criteria
2.ガイダンス
3.Methods
4.Tools
金融SBT


SCIENCE BASED TARGETS
FINANCIAL SECTOR SCIENCE-BASED TARGETS GUIDANCE
PILOT VERSION

金融機関向け SBTi 要件と推奨事項

一部抜粋

FI-C1 – スコープ: 金融機関(FIs, Financial Institutions)は、GHG プロトコル企業基準で定義された機関全体のスコープ 1 およびスコープ 2、ならびに FI-C15 及び FI-C16 で定義されたスコープ 3 の投資および融資活動をカバーする目標(複数可)を設定しなくてはなりません。金融機関は、FI-R9 に従って、残りのスコープ 3 の排出カテゴリーの目標を設定することができます。

FI-R9 – スコープ 3 のカテゴリ 1-14 の排出量を計測し目標を設定する: 金融機関については、GHG プロトコルスコープ 3 基準にて定義されているカテゴリ 1-14 について、計測し目標を設定するのは、推奨されていますが、必須ではありません。これらのカテゴリについて、任意で設定する目標が SBTi に認定されるためには、最新の一般企業向け SBTi 要件の要件 19-20 を満たす必要があります。

FI-C11 – オフセット: オフセットの利用は、金融機関の科学に基づく目標の達成のための排出削減として、カウントすることはできません。SBTi は、金融機関が自らの操業または投資・融資ポートフォリオ内の直接的行動を通じた排出削減に基づいて、目標を設定することを求めています。オフセットは、金融機関が科学に基づく目標を超えた追加的な排出削減を支援しようとする方法としてのみ考慮することができます。

https://sciencebasedtargets.org/resources/files/SBTi-Criteria-and-Recommendations-for-Financial-Institutions.pdf

*2020年10月版については日本語に仮訳したものが公開

https://sciencebasedtargets.org/resources/files/finalV1_JP_SBTi-Criteria-and-Recommendations-for-Financial-Institutions-Pilot-Version.pdf

金融セクター向けガイダンス

金融機関はSBTiに、SBTiの基準を満たすスコープ1，2の目標とスコープ3のポートフォリオ目標を提出する。

目次

1. GHG排出インベントリと目標のバウンダリ
2. スコープ1・2目標の時間軸
3. スコープ1・2目標の削減度合い
4. スコープ2
5. **スコープ3 – ポートフォリオ目標設定の要件**
6. **報告**
7. 再計算と目標の有効性

5章・6章では、金融機関の投融資活動に関する目標設定や進捗の管理、報告に関するステップについて説明がある。

金融SBTの対象

- SBTiは金融機関(Financial Institutions)を以下のように定義

  companies whose business involves the dealing of financial and monetary transactions, including deposits, loans, investments, and currency exchange.

- 収益または資産の5%以上が上記の活動から得られている場合、SBTiは企業を金融機関と見なす。

主な対象

- 銀行
- アセットマネジャー
- アセットオーナー
- 不動産投資信託(REITs)

そのほかの対象

以下のアセットクラスを保有している金融機関:

- 不動産
- 住宅ローン
- 発電プロジェクトファイナンス
- ローン・債券・株式

現在対象外

- 開発銀行
- ソブリン
- 保険引き受け

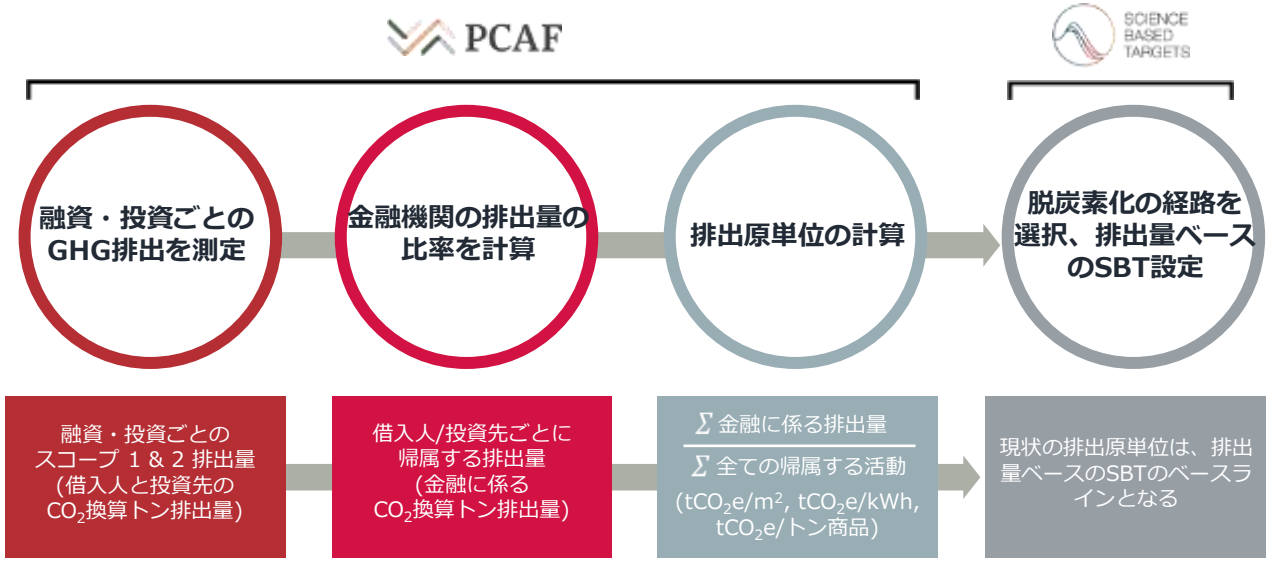
金融SBT ポートフォリオ目標の設定に向けて

1. バウンダリの設定

資産クラス	目標に組み入れる商品と要件	必要最低限のカバー率
上場株式・債券	普通株	100%
	優先株	100%
	社債	100%
	ETF	100%
	不動産投資信託(REITs), 上場不動産会社, 不動産投資信託への投資	100%
	ファンドオブファンズ	任意
	デリバティブ	該当せず
	ソブリン債, 国債	該当せず
	国際機関債l, サブソブリン債(地方債を含む)	該当せず
	機関債	該当せず
	証券化された債券（資産担保証券/モーゲージ証券, カバードボンドを含む）	該当せず

*一部抜粋

2. ベースラインの計算(必ずしも必要ではありません)



3. 方法の選択

排出量を基準とした物理的原単位目標: SDAのセクター (重工業 + 不動産/住宅ローン)のみ利用可能.
限られた対象範囲 – ローン/ プロジェクトファイナンスに最も有効

エンゲージメントの目標として承認されたSBTsを持つポートフォリオの企業のカバー率を高める
限られた対象範囲 – エクイティ/ローンに最も有効

"エンゲージメント+" 目標として野心的なGHG目標を持つポートフォリオの企業のカバー率を高める
最も広い対象範囲 – エクイティ/ローンに最も有効

対象のアセットクラス

Asset class	Products and Requirement for Inclusion in Targets	Required Minimum Coverage for Required Activities	Applicable Methods		
Consumer loan	Residential mortgages	Optional[a]	SDA		
	Motor vehicle loan	Not applicable	Not available		
	Personal loans	Not applicable	Not available		
Project finance	Electricity generation project finance	100% of base year activity (kWh)	SDA		
	Other project finance (e.g., infrastructure)	Not applicable	Not available		
Corporate loan	Corporate loan: commercial real estate	Min. 67% of base year activity (m^2)	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Corporate loan: electricity generation	100% of base year activity (kWh)	SDA		
	Corporate loan: other long-term debt (more than one year), excluding electricity generation project finance and real estate	Fossil fuel companies: min. 95% of base year corporate lending (loan value) Other companies: min. 67% of base year corporate lending[b] (loan value)	SDA, where sector-specific methods are available	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Corporate lending: SME loans[c]	Optional	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Corporate lending: short-term debt (less than one year, such as line of credit, intraday, and overdraft facilities)	Optional	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Corporate loan: other project finance	Not applicable	Not available		
Listed equity and bonds[d]	Common stock	100%	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Preferred stock	100%	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Corporate bonds	100%	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Exchange traded funds	100%	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Investments in real estate investment trusts (REITs), listed real estate companies, and real estate mutual funds	100%	SDA	SBT portfolio coverage	Temperature Rating
	Funds of funds	Optional	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
	Derivatives	Not applicable	Not available		
	Sovereign and government bonds	Not applicable	Not available		
	Supranational, sub-sovereign (including municipal) bonds	Not applicable	Not available		
	Agency bonds	Not applicable	Not available		
	Securitized fixed income (includes asset-backed securities/mortgage-backed securities, covered bonds)	Not applicable	Not available		
Private equity and debt[f], includes venture capital	Private equity and debt, e.g., mezzanine capital, ordinary shares, preferred shares, shareholder loans, private real estate companies	Optional[e]	SDA	SBT Portfolio Coverage	Temperature Rating
Advisory services, if relevant	Advisory services (e.g., Mergers and acquisitions), debt and equity underwriting, brokerage-securities and commodities, trading securities and commodities, credit guarantees, insurance contracts, transaction services	Not applicable	Not available		

CDP
DISCLOSURE INSIGHT ACTION

表の見方

例：上場株式・債権

Legend
Required Activities
Optional Activities
Out of Scope

アセットクラス	目標に組み入れる商品と要件	必要最低限のカバー率
上場株式・債券	普通株	100%
	優先株	100%
	社債	100%
	ETF	100%
	不動産投資信託(REITs)、上場不動産会社、不動産投資信託への投資	100%
	ファンドオブファンズ	任意
	デリバティブ	該当せず
	ソブリン債、国際	該当せず
	国際機関債、サブソブリン債(地方債含む)	該当せず
	機関債	該当せず
	証券化された債券 (資産担保証券/ モーゲージ証券、カバーボンド含む)	該当せず

アセットクラスごとに目標設定の方法や形式が異なる

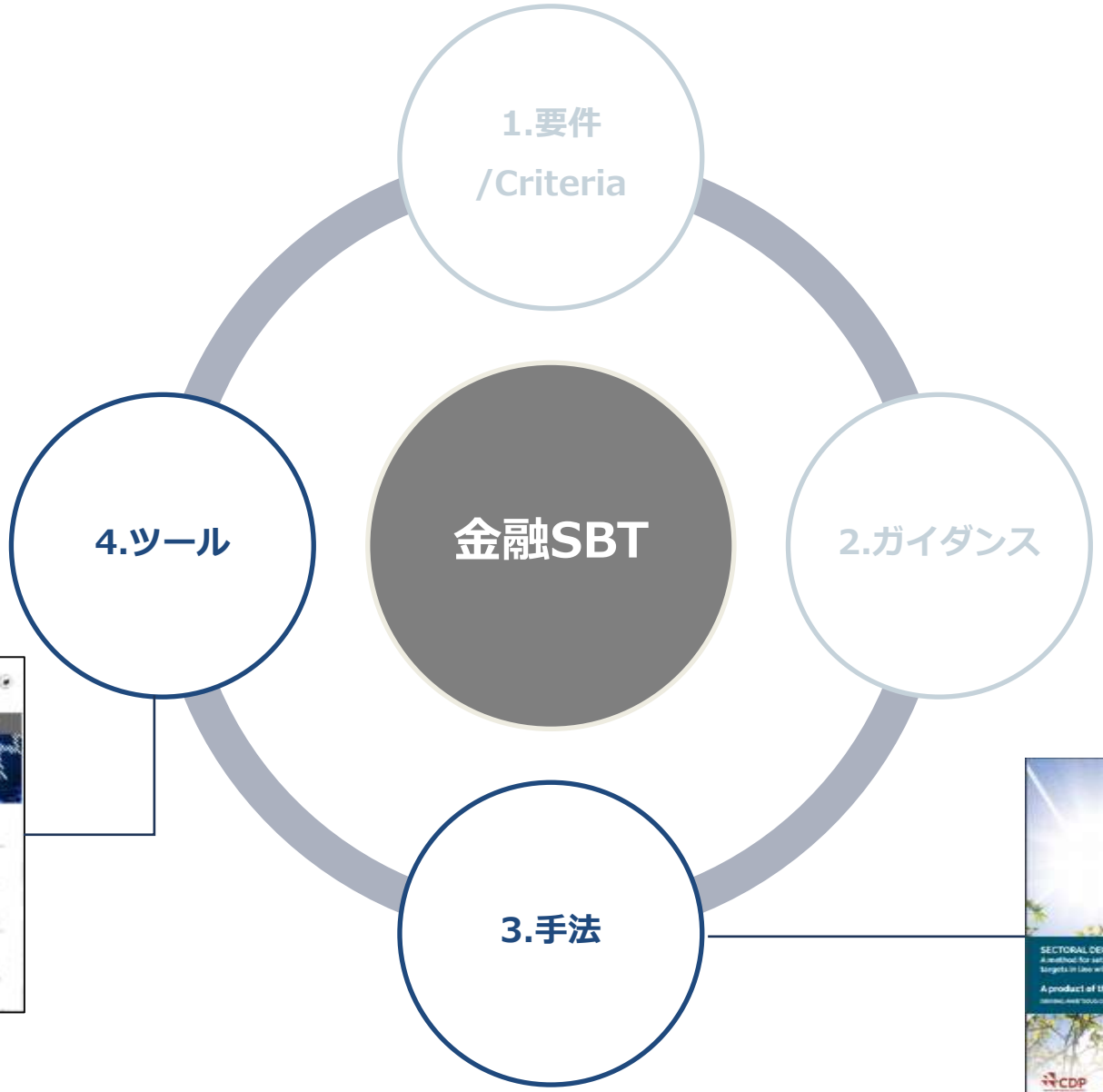
	不動産・住宅ローン	発電プロジェクトファイナンス	株式・債券	法人向けローン
Required Activities	不動産向け融資、エクイティ、プロジェクトファイナンスなど	発電プロジェクトへのファイナンス	普通株、債券、ETF、REITへの投資など	長期債務 (including SME and residential mortgages)
Minimum Coverage	面積ベースで67%	100%	100%	67% *95%(化石燃料関連)
Methods	SDA	SDA	SDA ポートフォリオカバー率 気温上昇スコア	SDA ポートフォリオカバー率 気温上昇スコア
Example target	面積[m2]あたり__%削減	発電[KWh]あたり__%削減	__%がSBT設定 気温上昇スコアを__℃にする	__%がSBT設定 気温上昇スコアを__℃にする

目標のバウンダリ

目標の例

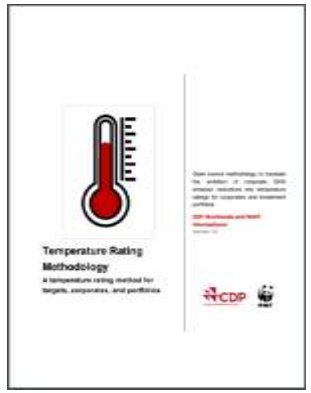
LBP: “不動産、住宅ローン、発電プロジェクトファイナンス、企業金融商品について2020年を基準年として2030年までにSBTsを達成する。La Banque Postaleのポートフォリオ目標は、2020年時点の投融資活動全体の**85%**をカバーしている。”
KBフィナンシャルグループ: “KBフィナンシャルグループのポートフォリオ目標は、2019年12月31日時点のエクスポージャー総額*で投融資活動全体の**13%**をカバーしている。”
*KBフィナンシャルグループが運用するローン、株式、債券、受益証券、その他有価証券の合計。

手法 & ツール


1.要件
/Criteria
2.ガイダンス
3.手法
4.ツール
金融SBT

FINANCIAL INSTITUTIONS
Temperature Scoring and Portfolio Coverage Tool for Financial Institutions

SECTORAL DECARBONIZATION APPROACH (SDA):
A method for setting corporate emission reduction targets in line with climate science
A product of the Science Based Targets Initiative
CDP


Temperature Rating Methodology
CDP

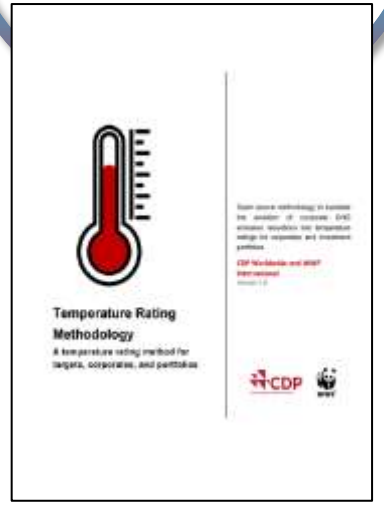
金融SBT

金融SBTでは3つの目標設定のアプローチを提示

セクター別
脱炭素化アプローチ
(SDA)

SBTポートフォリオ
カバー率

気温上昇スコア



3つの手法

TCFDでもSBTの3つの手法に対応する方法がポートフォリオアライメントツールとして紹介 ⇨ 状況や能力に応じて最適なツールを使用する必要あり

Figure C10

Types of Portfolio Alignment Tools

Example Types of Portfolio Alignment Tools

Binary Target Measurement

- Percent of investments or counterparties with declared net-zero targets
- Primary issue: incentivizes target setting, but does not provide temperature alignment assessment

Benchmark Divergence Models

- Measures forward-looking performance against normative benchmarks
- Primary issue: poorly constructed methods can lead to additional unintended consequences

Implied Temperature Rise Models (ITR)

- Translates degree of alignment into impact in the form of a temperature score
- Primary issue: complex and opaque regarding influence of key assumptions

SBT設定率

SBTを設定している企業の比率(1/0)

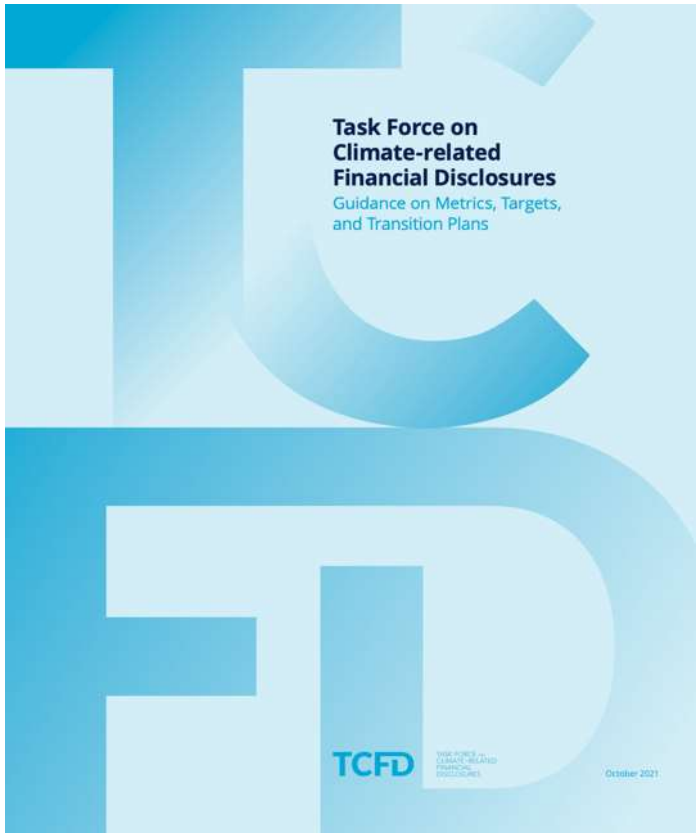
SDA

原単位が一定値になっているか?

気温上昇スコア

削減目標についての気温上昇スコア

指標、目標、移行計画に関するガイダンス



https://www.fsb.org/wp-content/uploads/P141021-2.pdf

資産クラスと利用可能な手法

該当セクターはSDA、コーポレート関連は3つ選択可

資産クラス	手法	説明
不動産	セクター別脱炭素化アプローチ(SDA)	排出量を基準とした物理的原単位目標を、非住宅用建築物の原単位と、合計GHG排出量について設定する。
住宅ローン	SDA	排出量を基準とした物理的原単位目標を、住宅用建築物の原単位と、合計GHG排出量について設定する。
発電プロジェクトファイナンス	SDA	排出量を基準とした物理的原単位目標を、発電プロジェクトの原単位と、合計GHG排出量について設定する。
コーポレート関連 (株式、債券、ローン)	SDA	排出量を基準とした物理的原単位目標を、部門別脱炭素化アプローチが利用可能なセクターについてのポートフォリオに、セクター別に設定する。
	ポートフォリオSBT設定企業カバー率	金融機関は投資先の一部について、2040年までにカバー率が100%になるようにSBT目標の設定をエンゲージメントする。
	気温上昇スコア	このアプローチでは、金融機関が現在の保有ポートフォリオの気温上昇スコアを計算し、そのポートフォリオを野心的な長期の気温上昇ゴールに沿うようにするために、ポートフォリオ内の企業に野心的な目標設定をエンゲージメントするものです。（例えば、2019年に2.6℃だが、2025年には1.7℃というように)

認定基準

Net Zero基準にてよりアップグレード予定

	SDA （セクター別原単位）	ポートフォリオSBT認定率	気温上昇スコア
水準	IEAのWB2Dシナリオ相当の原単位収束	2040年に100%となるように	2040年に スコープ1＋2：1.75℃ スコープ1＋2＋3：2℃
目標年	5～15年	5年以内	5年以内

エンゲージメント目標なので短期

排出量を基準とした物理的原単位目標
※SDA適用セクター (重工業 + 不動産/住宅ローン)のみ

ポートフォリオ内企業のうち**承認されたSBTs**を持つ企業の比率を高める

ポートフォリオ内企業のうち**野心的なGHG目標**を持つ企業の比率を高める

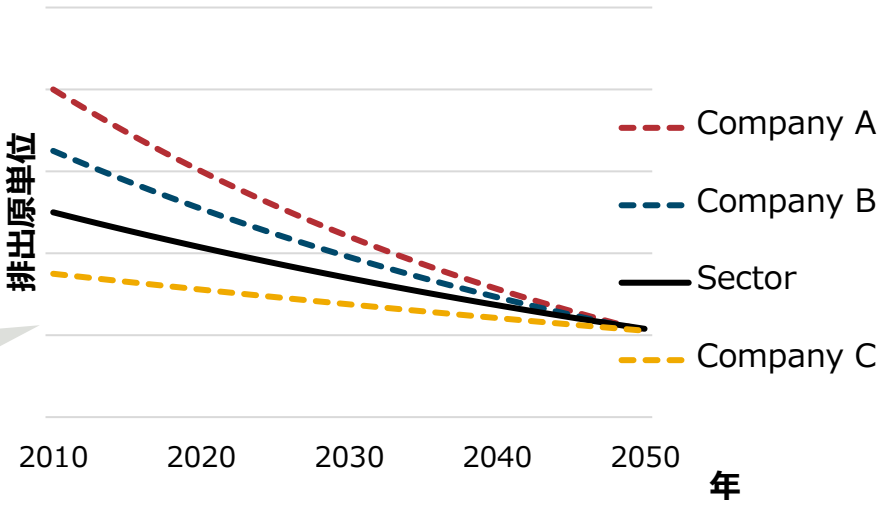
セクター別脱炭素化アプローチ

⇨特定のセクターに対しては、**排出量を基準とした物理的原単位**を指標としたアプローチ。

発電プロジェクトファイナンス($kgCO_2/kWh$)
企業ローンによる発電電力量（$kgCO_2/kWh$）
不動産担保ローン（$kgCO_2/m2$）
住宅ローン ($kgCO_2/m2$)
セメントセクターへの株式・債券・ローン（$kgCO_2$/セメントトン）
鉄鋼セクターへの株式・債券・ローン（$kgCO_2$/鉄鋼トン）
パルプ・紙セクターへの株式・債券・ローン（$kgCO_2$/紙パルプトン）

※the total portfolio emissionsの計算までは、PCAFと同じプロセス

$$\text{Emission intensity} = \frac{\text{the total portfolio emissions}}{\text{the total attributed activity}}$$



排出原単位が何年に何トンCO2e/生産単位となるべきかについて、IEAのエネルギー技術展望シナリオをベースに原単位目標を設定

セクター別脱炭素化アプローチの設定例

KB Financial Group

商業不動産	企業ローン				
全ての不動産貸付	紙・パルプ	発電	鉄鋼	アルミニウム	その他セクター
SDA	SDA	SDA	SDA	SDA	気温上昇スコア
2019 – 2030	2019 – 2030	2019 – 2030	2019 – 2030	2019 – 2030	2019 – 2025
平方メートルあたり59%削減	紙トンあたり42%削減	MWhあたり49%削減	鋼トンあたり42%削減	アルミニウムトンあたり31%削減	ポートフォリオの気温を3.1℃から2.75℃に低下

セクター別脱炭素化アプローチ　ツール

SCIENCE BASED TARGETS

Science-based Target Setting Tool

Version: Version 1.2
Support: info@sciencebasedtargets.org

IMPORTANT: By using this tool you acknowledge that you have read, understood and agree to our Terms of Use and Disclaimer.

Terms of use

This Tool is intended to enable companies to develop appropriate science-based emissions reductions targets, as well as to assist companies and interested third parties in assessing and evaluating companies' targets.

These terms of use govern all access to and use of the Tool. Please read these terms carefully before accessing or using the Tool and any associated materials. By accepting these terms, you indicate that you have read and understood them and that you agree to abide by them. If you do not agree to these terms, you will not be able to use the Tool.

The Science Based Targets initiative (SBTi) and its "Parter Organizations" (CDP, the United Nations Global Compact (UNGC), World Resources Institute (WRI), and the World Wide Fund for Nature (WWF)) reserve the right, at their discretion, to withdraw or amend the Tool without notice, and will not be liable if for any reason the Tool is unavailable at any time or for any period. Further, the Partner Organizations reserve the right to modify or replace any part of these terms of use. It is your responsibility to check these terms periodically for changes. Your continued use of the Tool following the posting of any changes to these terms constitutes acceptance of those changes.

Disclaimer

The Tool and associated materials have been prepared by the SBTi with a high degree of expertise and professionalism, and reflect current best practice in science-based target setting. However, the Partner Organizations, collectively and individually, do not warrant the Tool for any purpose, nor do they make any representations regarding its accuracy, completeness, timeliness or fitness for any use or purpose whatsoever. Information generated by the tool is not intended to amount to advice on which reliance should be placed.

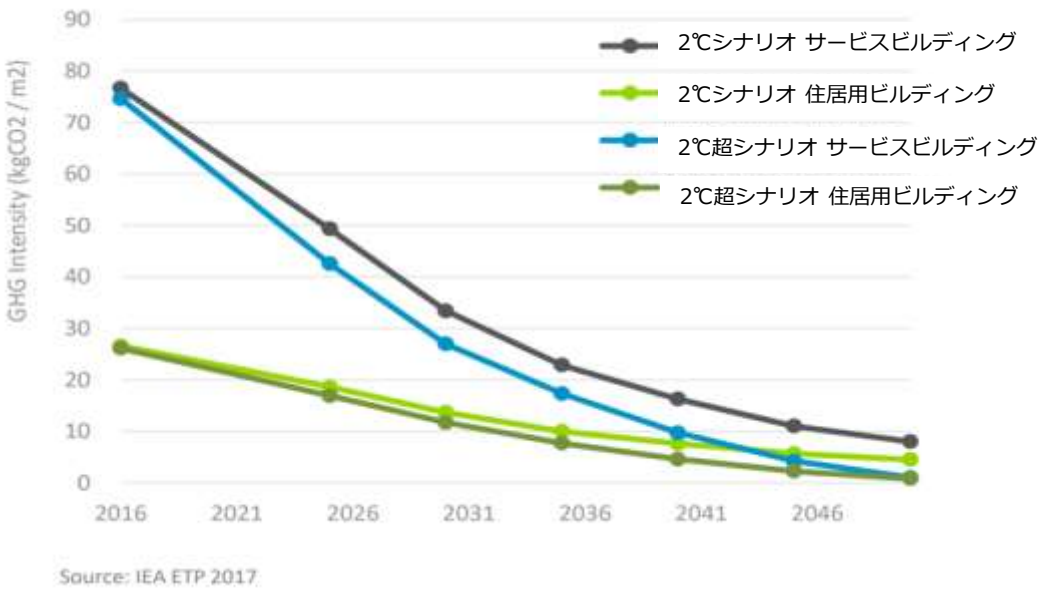
Developing science-based targets is a multi-step process and appropriate company-wide science-based targets can only be developed after careful consideration of the necessary input data on company emissions and activity. Only then should emissions targets be developed. The SBTi does not examine, verify or hold any such input data provided by users of the Tool.

The Tool relies on data obtained from a variety of third-party sources. This data was obtained from sources believed by the SBTi be reliable, but there can be no assurance as to the accuracy or completeness of this data. Further, scenarios and assumptions included in the Tool are inherently uncertain due to events or combinations of events that cannot reasonably be foreseen, including, without limitation, the actions of governments, organizations and individuals. The Partner Organizations, collectively and individually, make no warranties or representations about the accuracy or completeness of the data or assumptions contained in this Tool.

You therefore understand that you use the Tool at your own discretion and risk. You agree that you are not entitled to rely on any information generated by the Tool. You further agree to hold the Partner Organizations, collectively and individually, harmless for loss you might suffer arising out of any inaccuracies in information generated by the Tool. Under no circumstances shall the Partner Organizations, collectively and individually, be liable for direct, indirect or consequential loss or damage arising from the use of the Tool or an inability to use it.

*SBTiではSDAに対応するExcel計算ツールを提供:
https://sciencebasedtargets.org/sda-tool/

IEAによるグローバルな脱炭素化の経路



セクターにおけるグローバルな削減シナリオに沿った目標設定が可能

SDA
セクター別
脱炭素化アプローチ

排出量を基準とした物理的原単位目標
※SDA適用セクター (重工業 + 不動産/住宅ローン)のみ

ポートフォリオカバー率

ポートフォリオ内企業のうち**承認されたSBTs**を持つ企業の比率を高める

気温上昇スコア

ポートフォリオ内企業のうち**野心的なGHG目標**を持つ企業の比率を高める

ポートフォリオカバー率(SBT設定率)

⇨ポートフォリオ内企業のうち**承認されたSBTs**を持つ企業の比率を高めるアプローチ

2040年までに投融資先企業の100%が承認されたSBTを持つ。

※SBTファイナンスツールの重み付けアプローチを使用

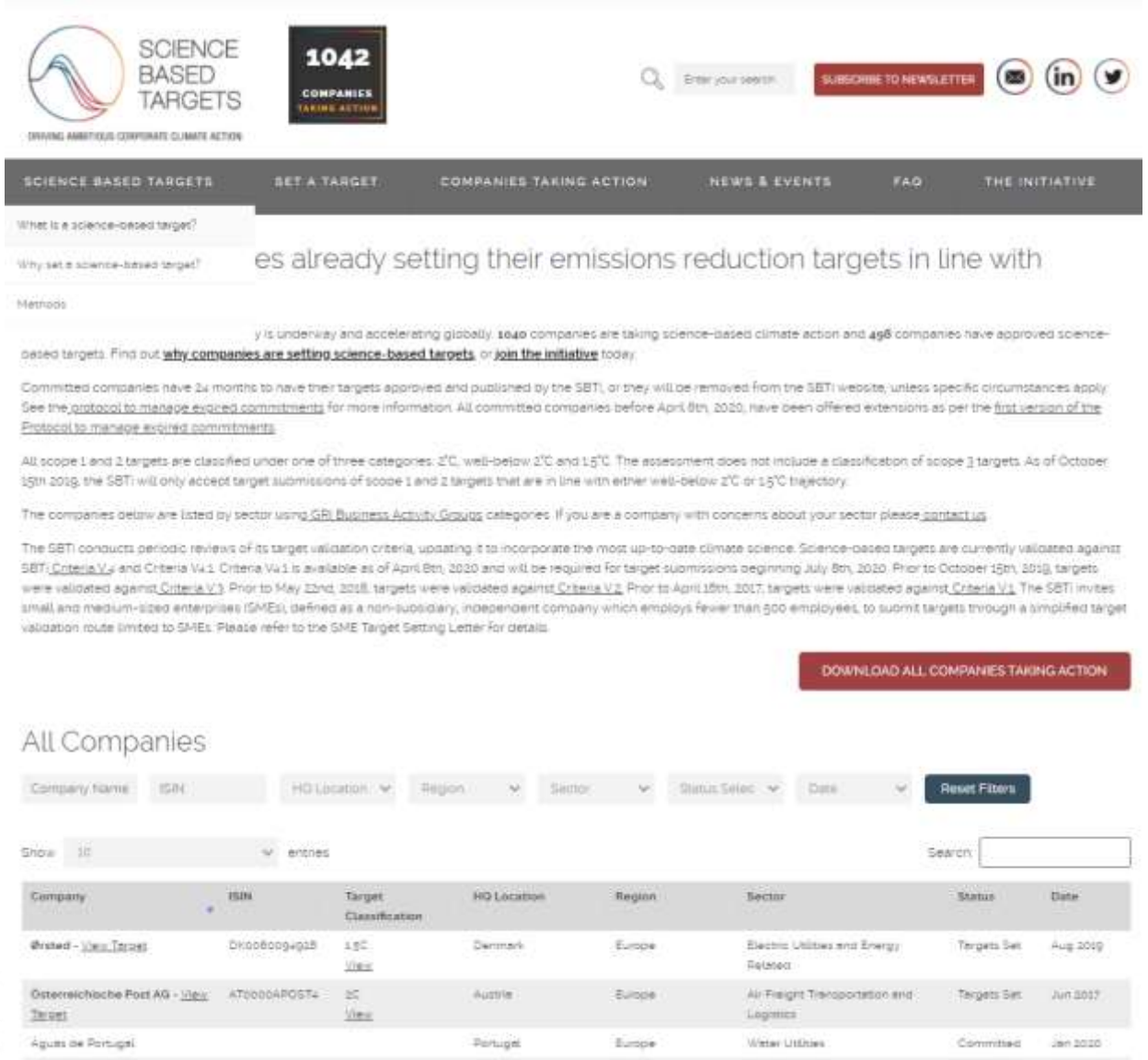
Groupe Bruxelles Lambert (GBL)の目標

Scope 3 asset class level targets

Asset class	Method	Target language
Corporate instruments (equity, bonds, loans), Private Equity	SBT Portfolio Coverage	GBL commits to 50% of common stock and preferred stock portfolios and 50% of eligible private equity setting validated SBTs by 2025 from a 2020 base year. GBL commits to 100% of common stock and preferred stock portfolio and 100% of eligible private equity setting validated SBTs by 2030 from a 2020 base year.

GBLは、普通株式と優先株式の50%、そして適格なプライベート・エクイティの50%が、2020年を基準として、2025年までにSBT認定を受けることをコミットします。
GBLは、普通株式と優先株式の100%、適格なプライベート・エクイティの100%が、2020年を基準年として、2030年までにSBT認定を受けることをコミットします。

ポートフォリオカバー率(SBT設定率)



目標の野心レベル：
金融機関は、借入者や投資先の一部を対象に、承認されたSBTsをそれぞれ設定するように働きかけることを約束し、2040年までに、(SBTファイナンスツールの重み付けアプローチを使用し)100%のポートフォリオカバー率に到達するような直線経路を辿る。

例：
ある金融機関が2020年に10%のポートフォリオカバー率でスタートした場合は、年4.5%ずつカバー率を上げる必要がある:
(90/ (2040 – 2020) = 4.5)

そして、2025年までに少なくとも32.5%のカバー率に達する:
(10 + [5 x 4.5] = 32.5)

SDA
セクター別
脱炭素化アプローチ

排出量を基準とした物理的原単位目標
※SDA適用セクター (重工業 + 不動産/住宅ローン)のみ

ポートフォリオカバー率

ポートフォリオ内企業のうち**承認されたSBTs**を持つ企業の比率を高める

気温上昇スコア

ポートフォリオ内企業のうち**野心的なGHG目標**を持つ企業の比率を高める

気温上昇スコア

⇨ポートフォリオ内企業のうち**野心的なGHG目標**を持つ企業の比率を高めるアプローチ

各企業のGHG目標の野心度を評価した気温上昇スコア(CDPとWWFが共同開発)をベースに、金融機関の気温上昇スコアをパリ協定に整合させる。**2040年**までに1.75℃レベル(スコープ1+2)、2040年までに2℃(スコープ1+2+3)。
※現在、認められているポートフォリオの気温アラインメントの方法論はCDP・WWFの気温上昇スコアのみ

Equity and Bonds	Temperature alignment	La Banque Postale commits to align its scope 1 and 2 portfolio temperature score within equity and bonds from 3.1°C in 2019 to 2.2°C by 2025. La Banque Postale commits to align its scope 1, 2, and 3 portfolio temperature score within equity and bonds from 3.2°C in 2019 to 1.9°C by 2025.
Long-Term Lending	Temperature alignment	La Banque Postale commits to align its scope 1 and 2 portfolio temperature score within long-term loans from 3.1°C in 2019 to 2.3°C by 2025. La Banque Postale commits to align its scope 1, 2, and 3 portfolio temperature score within long-term loans from 3.1°C in 2019 to 2.1°C by 2025.

＊一部目標を抜粋

株式および債券のスコープ 1 , 2 のポートフォリオ気温上昇スコアを、2019 年の 3.1℃から 2025 年までに 2.2℃にすることを約束します。
株式および債券のスコープ1、2、3のポートフォリオ気温上昇スコアを、2019年の3.2℃から2025年までに1.9℃にするすることを約束します。

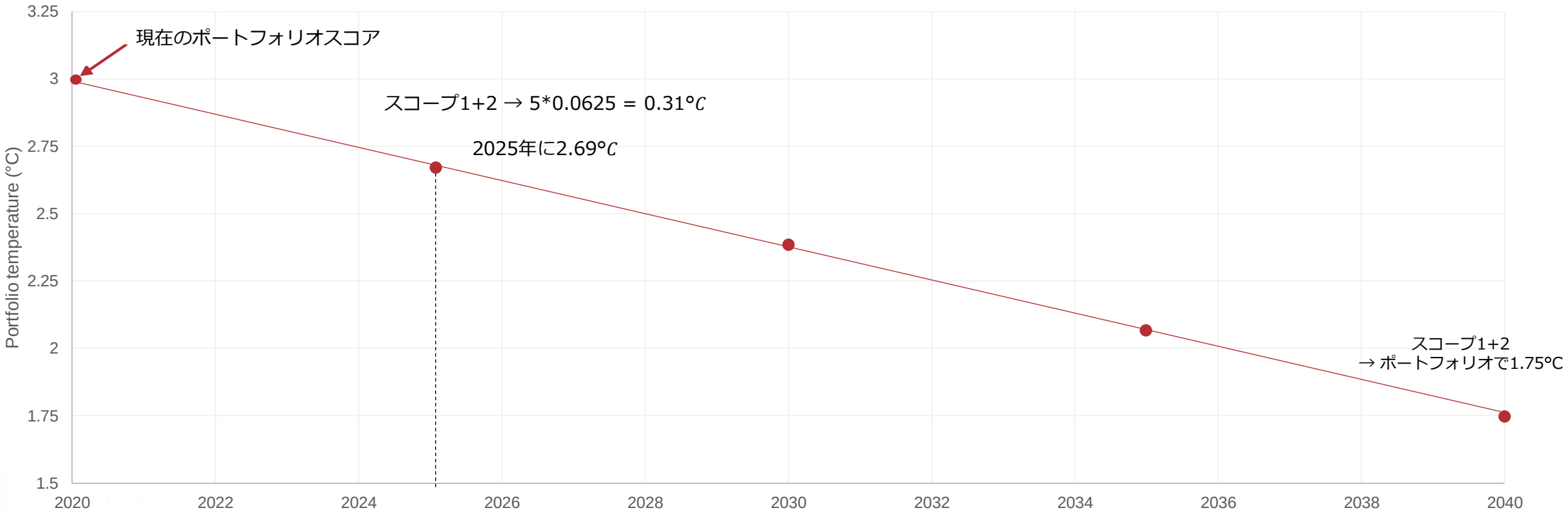
SBTiでは、Pythonによる目標から気温上昇スコアを計算するツールを提供（無償）。

CDPでは、CDP回答企業を中心に、データベース付きでの気温上昇スコア計算ツールを署名投資家に提供（有償）。

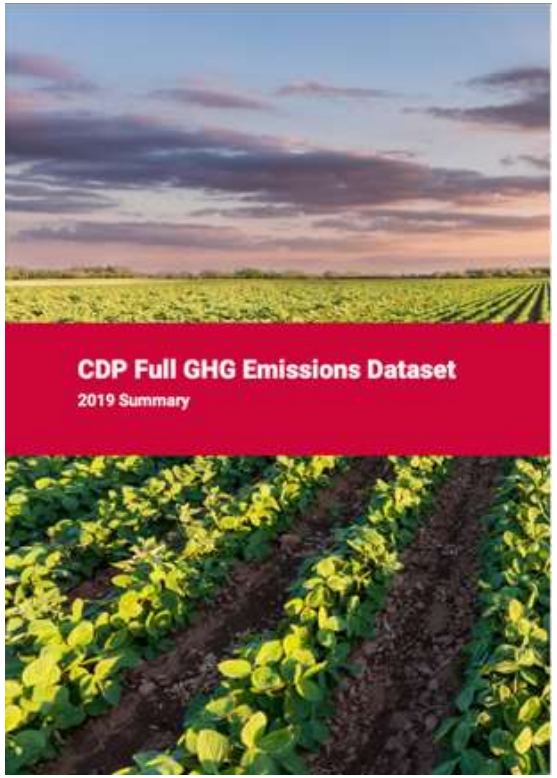
気温上昇スコア

ポートフォリオの年間気温低下 = $\frac{\text{ベースライン TR} - 1.75°C}{2040 - \text{基準年}}$ → スコープ1+2 → **2040年までに1.75°C**

例: **2020**年の基準年から 3°C を 1.75°C へ = $\frac{3°C - 1.75°C}{2040 - 2020}$ =0.0625°C/年



CDPのデータセットが効率的



※画像はサマリー冊子が作成された2019年のものですが、毎年データセットは最新の年次に更新したものを提供しております。

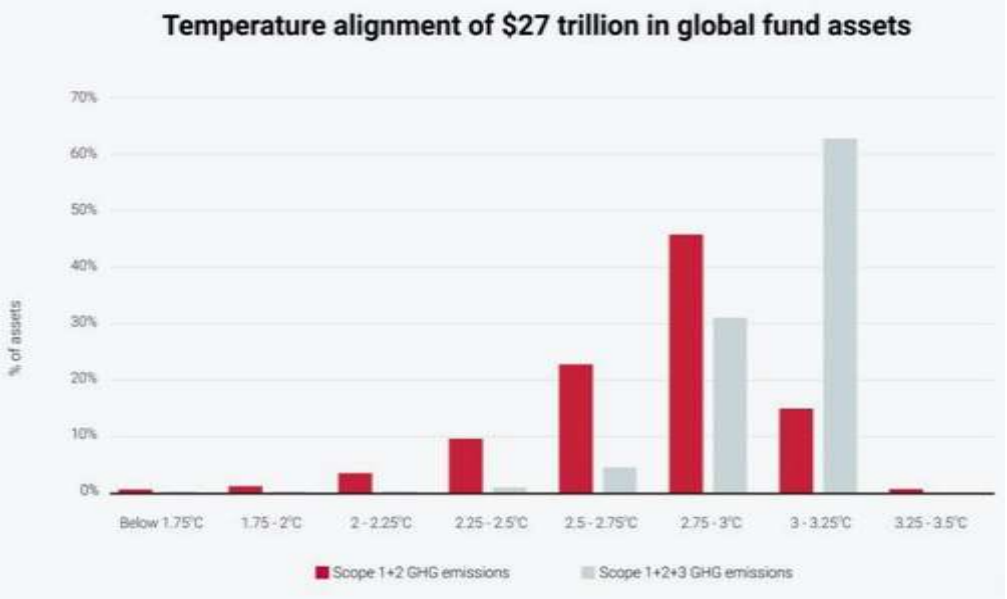
気温上昇スコア

Example targets	Translated temperature scores
30% absolute reduction by 2025	1.8°C
4% year-on-year reduction by 2030	1.9°C
50% reduction per unit of revenue by 2030	2.1°C
25% reduction per MWh by 2025	3.1°C

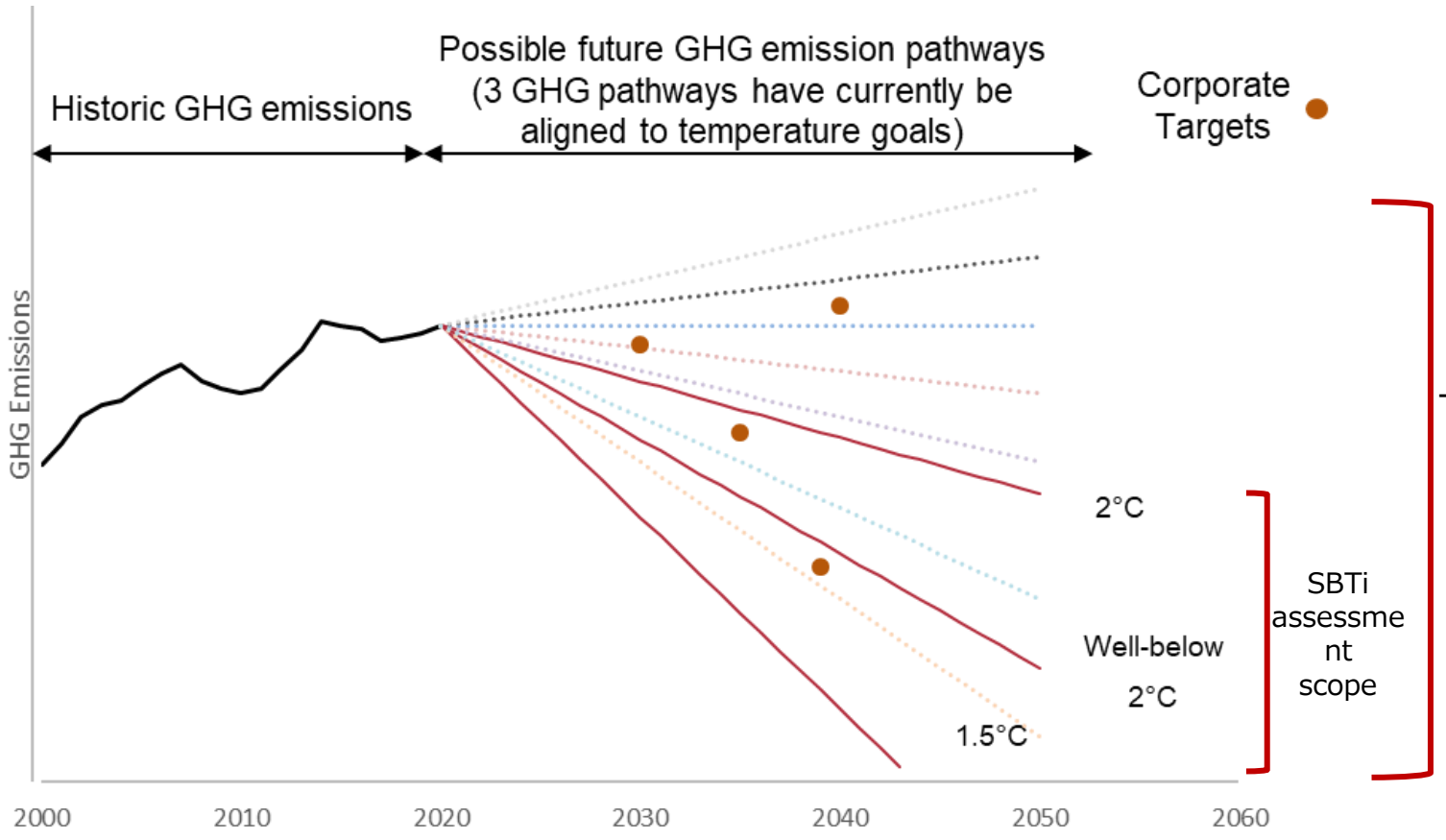
以下を含む:

- ✓ ISIN識別番号
- ✓ テクニカルノート&ガイダンス
- ✓ ポートフォリオ気温計算ツール
- ✓ GHG排出量

- **4000を超える企業について、目標に基づくユニークな気温上昇スコアを評価**
- スコープ（スコープ1+2、スコープ1+2+3）、時間軸（短期、中期、長期）ごとの内訳
- 目標のサマリー情報および品質スコアを含む、1社あたり最大50のデータポイント。
- 最新のSBTデータに更新



気温上昇スコア



- SBTiで評価済の範囲を拡大し、あらゆる一般のGHG削減目標を評価対象とする。

気温上昇スコア

1. ポートフォリオの気温上昇スコアは、各企業の排出量、総排出量に基づいて集計される:

ポートフォリオの気温上昇スコア (TR) =

$$\sum_{n}^{i}\left(\left(\frac{\text{投資額 } i}{EVIC} \times \frac{\text{企業の排出量}}{\text{総保有排出量}}\right) \times TR_i\right)$$

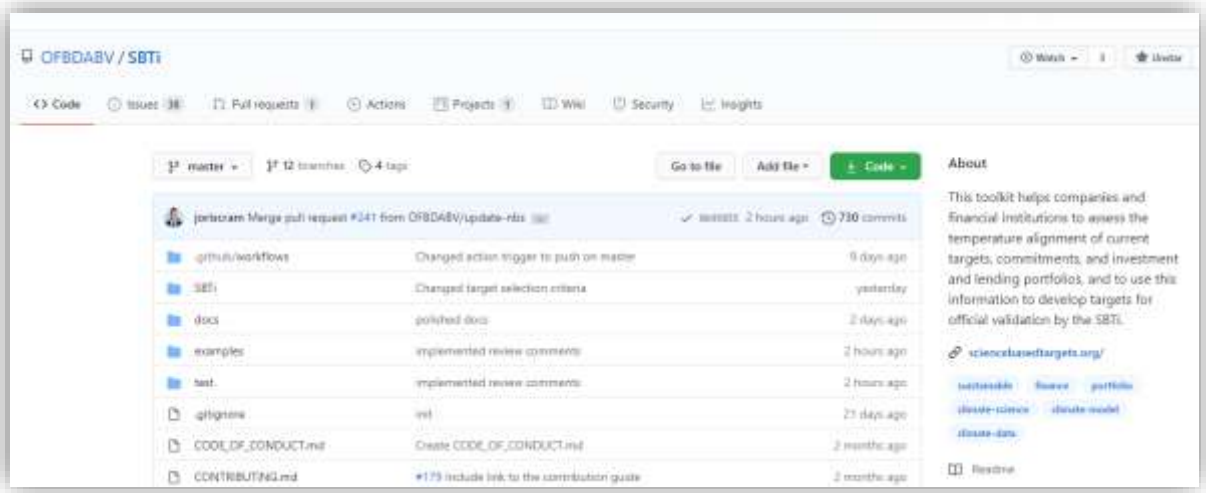
2. 各企業の相対的な寄与は、ポートフォリオにおける「保有排出量(owned emissions)」による。

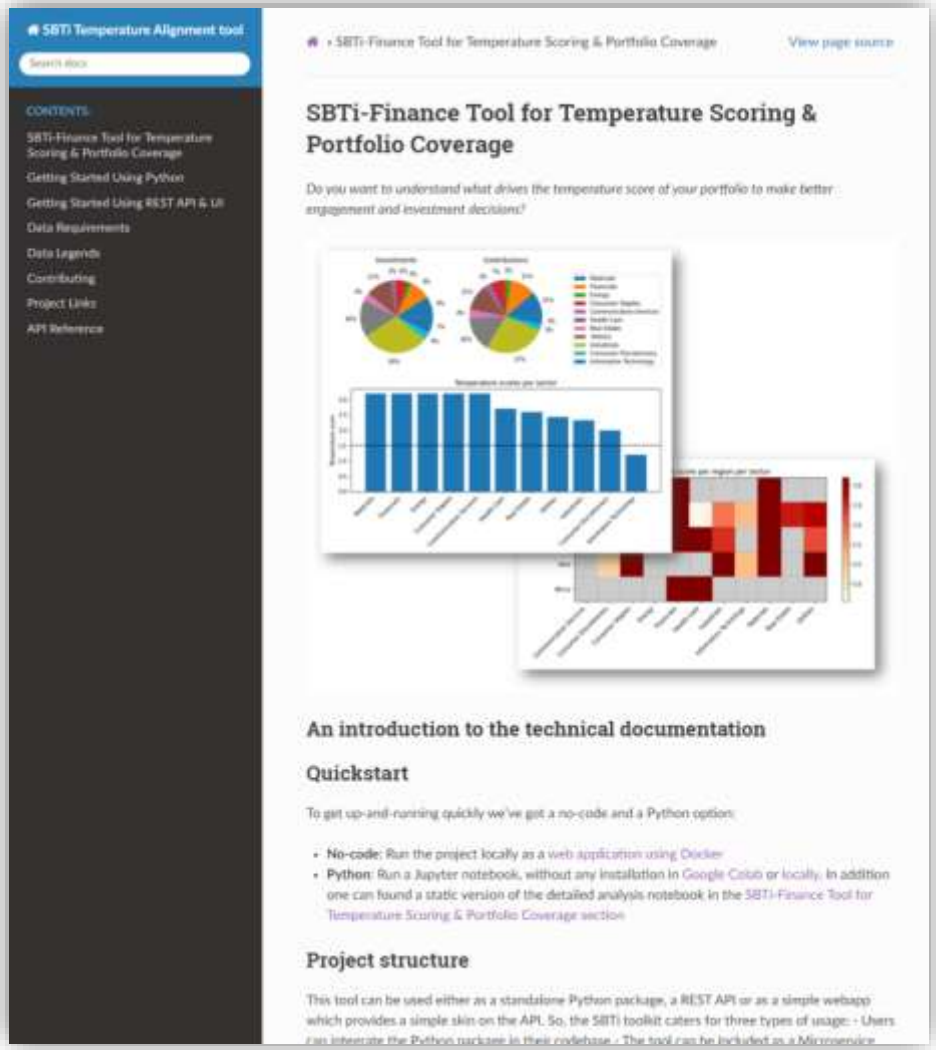
Order	Company name	SBTi Status	S1+2+3 Temperature rating (°C)	Owned GHGs (tonnes CO2e)	Weighted contribution to temperature rating
1	Company A	Not committed	2.7	61,890	11.6%
2	Company B	Not committed	2.3	30,751	6.8%
3	Company C	Not committed	3.2	27,402	6.1%
4	Company D	Not committed	3.2	25,720	5.7%
5	Company E	Committed	3.2	19,983	4.4%
6	Company F	Not committed	3.9	15,348	4.2%
7	Company G	Not committed	3.2	16,419	3.7%
8	Company H	Committed	2.4	19,705	3.3%
9	Company I	Committed	2.5	15,703	2.7%
10	Company J	Not committed	3.2	11,426	2.5%
11	Company K	Approved	1.7	10,950	2.4%
12	Company L	Not committed	3.2	10,711	2.4%
13	Company M	Not committed	4.1	8,103	2.3%
14	Company N	Not committed	3.2	10,113	2.3%
15	Company O	Not committed	1.9	12,403	1.8%
16	Company P	Not committed	2.4	8,079	1.4%
17	Company Q	Not committed	3.2	6,132	1.4%
18	Company R	Approved	1.7	5,708	1.3%
19	Company S	Not committed	3.2	5,615	1.2%
20	Company T	Not committed	3.2	5,420	1.2%

SBTi FinanceのToolおよびCodebase

金融機関のポートフォリオ管理システムに統合することを想定し、ポートフォリオカバー率や気温上昇スコア温度のアプローチに対応した目標設定プロセスの支援ツールをSBTiは提供。

- オープンソース – 継続した開発作業・広く配布
- Data Agnostic – あらゆるデータプロバイダーや自社のデータレイクに対応
- ユーザーインターフェース – あらゆるサービスプロバイダーや自社のポートフォリオ管理ソリューションに対応





https://sciencebasedtargets.org/finance-tool

◆ウェビナー・最新情報・お知らせはこちらを定期的にご覧ください。（随時最新情報が更新されます）
https://www.cdp.net/ja/japan/disclosure#294bb844ddeb59567c057ca538e2c3da

◇公募投信に対するクライメトリクス格付け
https://www.cdp.net/en/investor/climetrics/

CDP事務局
japan@cdp.net

キャピタルマーケッツ関連のお問い合わせ
capitalmarkets.japan@cdp.net

03-6225-2232
東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル3F xLINK 大手町オフィス
https://www.cdp.net/ja/japan